

事務事業及び予算の執行実績（令和6年度分）
「一部、令和7年度分を含む」

静岡県立下田高等学校

（本校）静岡県下田市蓮台寺152番地
電話番号 0558-22-3164
FAX番号 0558-23-0453

（分校）静岡県賀茂郡南伊豆町石井58番地
電話番号 0558-62-0103
FAX番号 0558-62-2799

目 次

事務事業の概要	1
事務執行の根拠法令調	3 3
学校施設の概要	3 4
在籍生徒調	3 8
入学志願者及び入学者数調	4 0
卒業生の動向調	4 3
生徒の状況	4 6
授業料収納状況調	5 0
県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	5 2
保管現金有高調	5 3
預金調	5 3
郵券等受払調	5 4
材料品受払簿	5 6
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	5 7
委託料に関する調	5 9
補助金支出調	6 3
負担金支出調	6 4
土木工事調	6 6
建築工事調	6 8
公有財産調	7 0
借地借家等調	7 1
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	7 2
行政財産貸付・使用許可調	7 3
普通財産・借受財産等貸付調	7 5
職員公舎管理状況調	7 6
主要備品調	7 8
生産物受払調	7 9
職員調	8 4
職員の年齢調	8 8
健康管理	8 9

事務事業の概要

1 概況

(1) 学校の沿革

ア 本校の前史

(ア) 静岡県立下田北高等学校（住所 下田市蓮台寺 152）

- 明治 12 年 1 月 15 日 私立豆陽学校開校
- 明治 32 年 8 月 1 日 賀茂郡立中学豆陽学校開校（校舎移転）
- 大正 8 年 4 月 1 日 静岡県立豆陽中学校開校
- 昭和 23 年 4 月 1 日 静岡県立下田第一高等学校
- 昭和 24 年 4 月 1 日 静岡県立下田北高等学校
- 平成 20 年 3 月 31 日 静岡県立学校長期計画による再編整備のため学校を閉じる。

(イ) 静岡県立下田南高等学校（住所 下田市 6 丁目 4-1）

- 大正 9 年 4 月 1 日 賀茂郡立賀茂高等女学校開校
- 大正 11 年 4 月 1 日 静岡県立下田高等女学校
- 昭和 23 年 4 月 1 日 静岡県立下田第二高等学校
- 昭和 23 年 9 月 13 日 南中村他 5 か村組合立南賀分校開設（昼間定時制課程普通科）
- 昭和 23 年 9 月 29 日 夜間定時制課程開設（本校）
- 昭和 24 年 4 月 1 日 静岡県立下田南高等学校
- 昭和 31 年 4 月 1 日 南賀分校を南伊豆分校と改称
- 昭和 32 年 4 月 1 日 南伊豆分校昼間定時制普通科を農業科に変更
- 昭和 34 年 4 月 1 日 南伊豆分校昼間定時制を全日制課程に変更
- 昭和 38 年 4 月 1 日 南伊豆分校農業科を園芸科に変更
- 平成 20 年 3 月 31 日 静岡県立学校長期計画による再編整備のため学校を閉じる。

イ 本校の設立経緯

- 平成 12 年 静岡県立高等学校長期計画において、再編整備を公表
- 平成 15 年 新構想高等学校検討委員会設置
- 平成 17 年 新構想高等学校準備検討委員会設置
- 平成 18 年 新構想高等学校設立準備委員会設置
- 平成 19 年 6 月 静岡県立高等学校設置条例の一部改正
校名を「静岡県立下田高等学校」とする。
- 平成 20 年 3 月 21 日 校舎建設工事完了

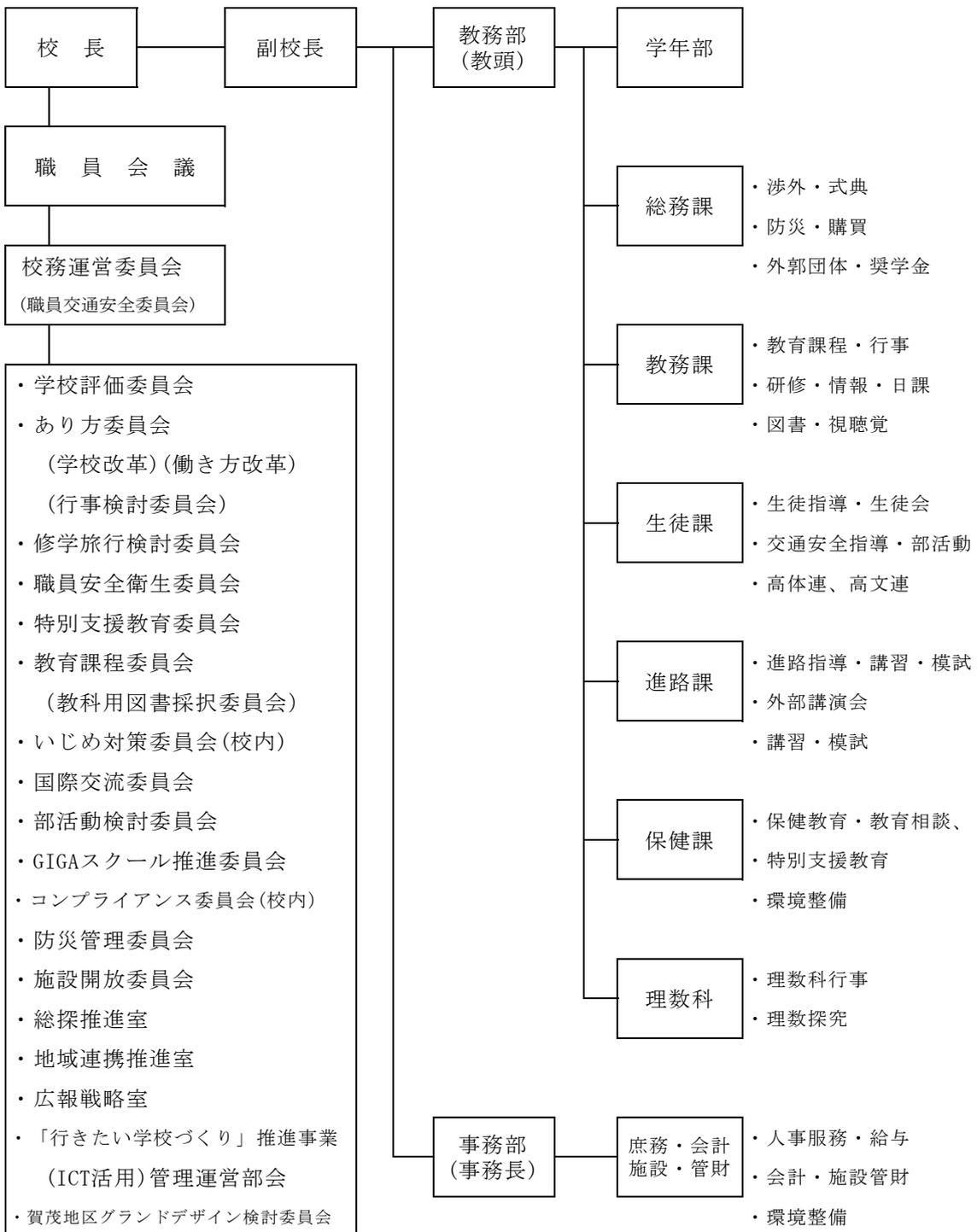
ウ 本校の沿革

- 平成 20 年 4 月 1 日 静岡県立下田高等学校開校
全日制普通科、理数科及び定時制普通科を設置
南伊豆分校に全日制園芸科を設置
全日制普通科生徒定員 240 人 理数科生徒定員 40 人
定時制普通科生徒定員 40 人
全日制園芸科生徒定員 40 人
- 平成 20 年 4 月 8 日 静岡県立下田高等学校開校記念式典を挙行
- 平成 23 年 4 月 1 日 全日制普通科生徒定員 200 人
- 平成 29 年 10 月 31 日 下田高等学校統合 10 周年記念行事実施
- 平成 30 年 9 月 13 日 下田高等学校南伊豆分校創立 70 周年記念行事実施
- 令和 2 年 4 月 1 日 全日制普通科生徒定員 160 人
- 令和 5 年 4 月 1 日 全日制普通科生徒定員 120 人

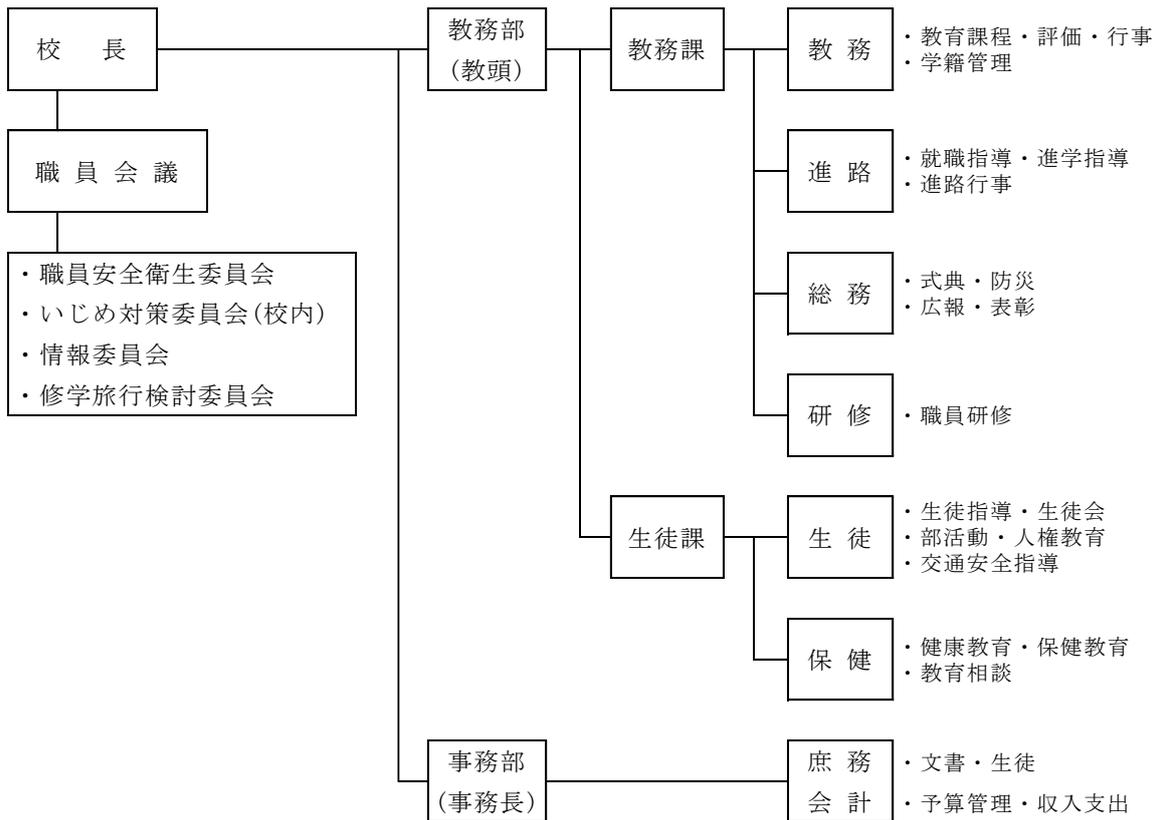
(2) 組織図

- ・学校運営協議会
（いじめ対策委員会）
（コンプライアンス委員会）
（学校関係者評価委員会）
- ・学校保健委員会

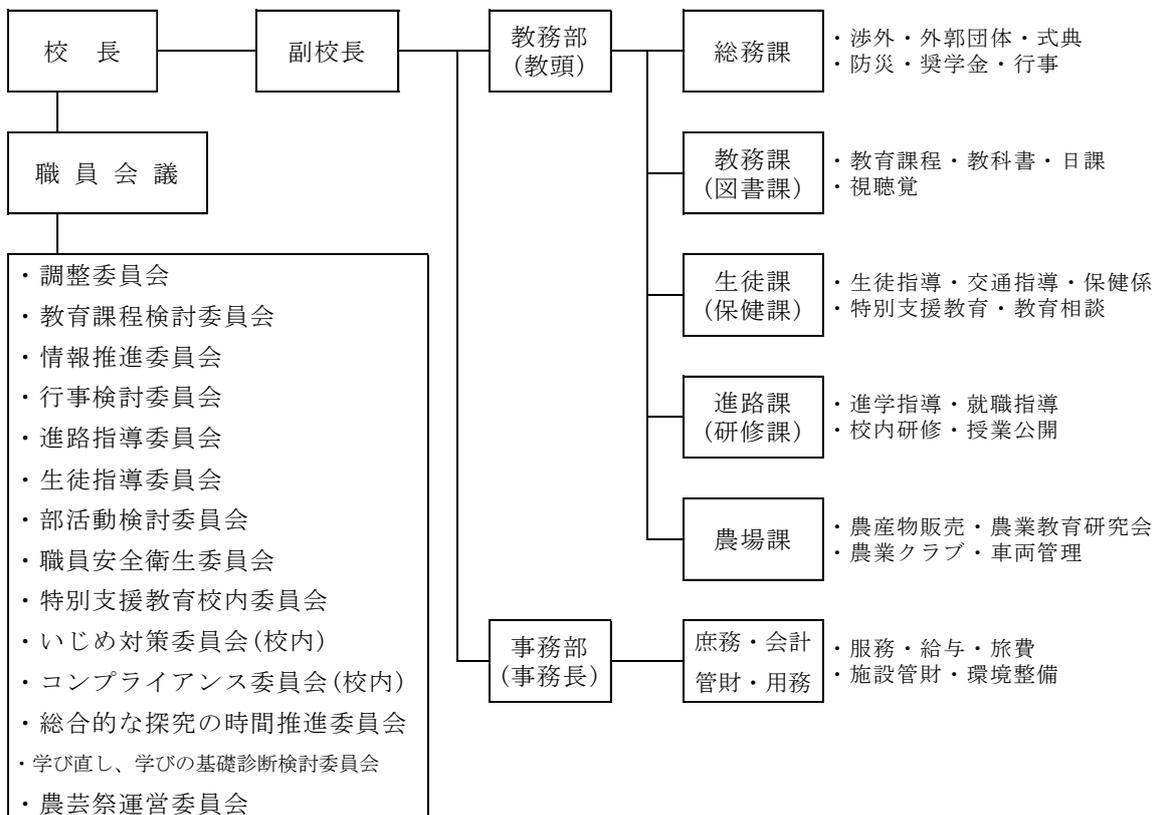
【本校全日制】



【本校定時制】



【南伊豆分校】



2 目指す学校像

(1) スクール・ミッション

【本校全日制・定時制】

賀茂地域における高校教育の伝統的拠点校として、知・徳・体の人間教育と地域連携による課題解決型学習を通して、将来の日本や地域を支え、導いていく人材の育成を目指す。

【南伊豆分校】

賀茂地区における唯一の専門高校（園芸科）として、小規模校の強みをいかし、生徒が主体的に地域連携活動やキャリア形成に取り組む教育を通して、地域社会を支え、貢献する人材の育成を目指す。

(2) スクール・ポリシー

【本校全日制】

グラデュエーション・ポリシー ＜身に付けたい力＞	カリキュラム・ポリシー ＜目指す学び＞	アドミッション・ポリシー ＜望む生徒像＞
～下高生3つの力～ (1) 自己決定力 広い知識と思考力を身に付け、自ら決定できる力 (2) 自走力 主体的に判断し、積極的に行動できる力 (3) 人間力 至誠(誠実性・公平性) 雄飛(国際性・創造性) 献身(協調性・社会性)	(1) 柔軟な選択科目と工夫された授業による、多様な進路実現 (2) 探究活動による、実践的・主体的な学び (3) 学習にも部活動にも積極的に取り組む文武両道	(1) 高い志を持ち、向上心を持って真摯に学習に取り組む生徒 (2) 部活動、生徒会活動、学校行事などに積極的に取り組む生徒 (3) 社会に貢献する意欲を持ち、次世代のリーダーを目指す生徒

【本校定時制】

グラデュエーション・ポリシー ＜身に付けたい力＞	カリキュラム・ポリシー ＜目指す学び＞	アドミッション・ポリシー ＜望む生徒像＞
(1) 入学時点で自分が課題としていたことを克服できる力を持つ人を育成します。 (2) 自己管理能力、他者を思いやる気持ち、協調性・協同性を身に付けた人を育成します。 (3) 社会に貢献する意欲を持ち、将来の自己の在り方を見据えて進路実現を果たせる人を育成します。	(1) 基礎・基本を重視しつつ、発展的な学習にも対応できるよう、個別最適な学習の充実を図ります。 (2) 体験活動や協同学習等を通して達成感や成功体験を積むことで、自己肯定感・自己有用感を高めます。 (3) 規範意識や人権意識を身に付けることで、社会性や公共心、自他を尊重できる心を養います。	(1) 「心機一転、定時制で頑張り抜きたい」という気持ちを持って、学び直しに取り組める人を求めます。 (2) 定時制で学ぶ者同士で助け合い、励まし合う中で「自分を高めたい」という意欲を持つ人を求めます。 (3) 自らの課題を克服するために、真剣に自分と向き合う覚悟がある人を求めます。

【南伊豆分校】

グラデュエーション・ポリシー ＜身に付けたい力＞	カリキュラム・ポリシー ＜目指す学び＞	アドミッション・ポリシー ＜望む生徒像＞
(1) 豊かな人間性と基本的な生活習慣の確立 (2) 確かな学力を持ち、農業の知識と技術・技能の力 (3) 幅広い視野を持ってこれからの社会を生き抜く力 (4) 地域や社会に貢献するための資質・能力	(1) 充実した授業・実験・実習と基礎学力の向上 (2) 自己目標の明確化と3年間を見通した進路指導 (3) 学びを生かすための積極的な地域連携・地域貢献 (4) 学び直しなどの多様な学びとその機会の充実	(1) 地域社会に貢献する高い志を持つ生徒 (2) 農業や園芸、食と環境に関する興味・関心を持ち、主体的に学ぶ生徒 (3) 実験や実習等に積極的に取り組む生徒

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題

【本校全日制】

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
すべてに優先する安心安全な学校づくり	ア 生徒データ等を含む情報データにおいて、情報漏洩等のトラブル防止に加えて、利便性の高い情報システムの構築を行う。(教務課)	<ul style="list-style-type: none"> 成績処理システムを、正確にセットアップ及び運用することができた。また、成績処理等を効率的に行うことができるように新たに「te@cher-navi 操作マニュアル」の作成を行い、周知することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校務系ファイルサーバや共有のGoogleドライブについては、各組織のフォルダ内の整理が不十分な組織もあり、引継ぎの観点からも、各組織のフォルダ内の整理を呼びかける必要がある。
	イ・安全に関する教育（ネットワーク利用犯罪、不審者、薬物等）の徹底 ・薬物講座、防犯教室を年1回実施（生徒課）	<ul style="list-style-type: none"> 実施できたが、日程が合わず警察の協力を得られなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内での盗難や紛失を無くすために、行事の時の貴重品の管理や、普段の啓発活動を地道に行っていきたい。
	ウ 学期ごとの環境整備活動の円滑な実施と、生徒の心身強化のサポートを行い、安心して学校生活を送れる環境づくりを行う。(保健課)	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーの予約方法の拡大、相談室だよりの発行などにより、心の面のケアの強化に努めた。相談件数自体は増えていないものの、相談しやすい環境は整えられた。 職員研修等により、特別支援に対する教員の意識も高まった。 環境整備については清掃、換気等を問題なく行えた。職員安全衛生委員会での意見をもとに傘立ての移動等の改善を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な生徒に関する職員間の情報共有と適切な役割分担ができる体制づくり。 ・熱中症等新たな健康課題への対応。

	エ 防災意識を高める講座の計画と実施。実際の災害を想定した防災訓練の計画と実施。地域防災訓練参加率70%を目標とする。(総務課)	<ul style="list-style-type: none"> 9月1日の防災訓練が台風で中止になり、12月の訓練だけの参加状況になるが、1・2年生で71%の参加状況だった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> アンケートや参加状況の集計を素早くできるフォームを工夫したい。本校の防災に関わる基本的な情報を生徒に伝達・理解する場を設けて周知させたい。
グローバルで活躍できる人材の育成	ア 育成を目指す資質・能力を明確にし、キャリア教育の視点を持って、3年間を見通した体系的な進路指導を構築する。(総合探究と特別活動の視点で)(進路課)	<ul style="list-style-type: none"> 進路ストーリーの提示など、3年間、1年間の見通しを持たせることができた。 指定校推薦に関する内規の改定をおこなった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオ活用の場がないため、活用方法を検討する。 振り返りするべき行事を精選する。言われたからやっているのが現状である。総探、模試、講習などの振り返りについても検討をする。
	イ 理数科生徒の各種研修や実験教室による、グローバルで活躍するための進路明確化支援。生徒の満足度5段階評価で平均4.0以上。(理数科)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒満足度は各研修の平均で4.3であった。おおむね例年と同様に進めることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 地元との関わりを継続しつつ、県外研修(東京研修)について行くだけではなく有意義なものにしていきたい。
	ウ 生徒が海外で研修する機会を3件以上提供する。次回、NY研修に向けての計画をすすめる。(国際交流委員会)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が海外で研修する機会を2件提供することができた(モンゴル高校生交流事業6名応募→採用1名/韓国高校生派遣事業7名応募→採用0名/高校生海外インターンシップ1名採用) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も今年度同様に積極的に呼びかけ、挑戦する機会を提供していきたい。
	エ 主体的な学びに有効なICT機器の整備と、研修等を通してそれを多くの教員が有効に活用できる(教務課)	<ul style="list-style-type: none"> 4月に新着任の先生に対するICT研修及び8月に全教職員に対するICT研修を実施することができた。 学校に割り当てられたiPadやChromeBookについては、利便性が高くかつセキュリテイ的にも安全な状況を、昨年度に引き続き維持することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ICTリテラシーについては、教員の個人格差が大きく、生徒の1人1台端末の利用率を上げ、ICT教育の推進をはかるには、教科内や学年内などで、相互にICT活用の情報について教え合ったり、学び合ったりする機会を設ける必要がある。
主体的、能動的に学ぶ力の育成	ア 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を培うキャリア体験活動の機会を設ける(地域連携によるリアルな活動とオンライン活用)。(進路課)	<ul style="list-style-type: none"> 1年：トークフォークダンス、分野別ガイダンスの実施。 1・2年：夢ナビライブへの参加。全学年：夢講座の実施、ナース体験の実施 土曜講習の実施。他多数。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 手を広げすぎて、業務として多忙感があるため、行事や内容の精選はしたほうがよい。

	<p>イ 新設された2年生文系特進クラスにおいて、特進クラスの特徴となるプログラムとして、裁判所見学、こども園、小学校、中学校における英語教室、下田市議会の見学など実施する。(2年部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文系特進クラスにおいて、裁判所見学、大学見学、下田市議会の見学等を行った。生徒、保護者の満足度は高かった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 文系特進クラスの魅力がさらに増すような学習環境を作っていく。
	<p>ウ 理数探究の充実による自ら考え、実行できる生徒の育成。生徒の満足度5段階評価で平均4.0以上。(理数科)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒満足度は4.9であった。どの班もテーマ設定から考え、研究を進める中で科学的思考や協同する大切さを学んだ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 中間発表から講師を招いて講評をいただくことにより、充実した探究を行うことができた。次年度も継続して実施していきたい。
	<p>エ 総合的な探究の時間を通して、課題を発見し解決するための知識、技能を身につけるとともに、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。(総探推進室)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 隔週の総探推進室の会議を通じて、各学年の進行状況に関する情報共有と意見交換ができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 探究を下田高校としてどのように位置づけるのか目線合わせをしていきたい。 総探推進室外の教員への周知の方法を検討する。年度始めや単元ごとに、「やる意義」や「全体像」を共有する場を設定したい。 現行の全体計画が完成度を迎えたため、総探の授業だけに留まらずカリキュラムマネジメントにつなげたい。
学校の組織力を高めるとともに、教職員の資質向上の推進	<p>ア 学校運営や業務のあり方について、必要があれば改善のために提案・提言しようとしている教職員が85%以上。(あり方委員会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職員学校評価アンケートで「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した教職員は全体の86.1%であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営について、校務運営委員会での話し合いをさらに充実させていく。
	<p>イ 学力向上、授業力向上のための提案を行う。それを目標とした研修会等を行う。(教務課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究週間や授業アンケート等を通して、授業改善を呼びかけた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> クラス減や生徒の総数が減少していることによる生徒の質の変化や、特進クラスの設置などもあるため、今後も引き続き研修が必要である。
	<p>ウ 「進路シラバス」・進路検討会・「高校生のための学びの基礎診断」などを活用し、進路指導体制の理解を深める。(進路課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 進路検討会の実施 進路の手引きを発行できず、シラバスの提示ができなかった。 学びの基礎診断の授業への活用方法が具体的ではなかった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 職員に各種手続きや行事運営の手順がわかりやすく伝わるまとめが必要。 手引きの内容の精選と、前年度内での原稿作成

	エ 人権教育全体計画、年間指導計画に従い社会の多様性を理解するところの豊かな生徒を育てる。コンプライアンス研修を踏まえ、学校内での人権に関わる諸事案の情報を共有し全職員の人権意識が向上する。校内研修計画に沿い、特別支援教育等についての知識理解を深め、多様な生徒に対し適切な対応をとるための資質向上がなされる。(教務課)	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育全体計画、年間指導計画を示し、それに従ってところの豊かな生徒を育てた。 コンプライアンス研修や校内研修を通して、全職員の人権意識が向上した。 また特別支援教育の全体研修を2回行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育全体計画の構想を、日々の教育活動でどのように具現化していくか、引き続き全教職員の共通理解のもと、計画的、組織的に指導できるようにする。 また、動画視聴による研修も導入を検討する。
学校魅力化・活性化のための開かれた学校	ア 地域連携を通じて、生徒の未見の可能性を耕し、学びに向かう力の向上を図るとともに、校外での学びを学校内での学びと有機的につなげる。(地域連携推進室)	<ul style="list-style-type: none"> 各種事業に生徒を派遣し、連携を深め、生徒の学びを高めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各種事業を体系的に整理し、進路マップ上に位置づけることで、下田高校としての生徒に身につけさせたい資質・能力を具体化し、それに向けた具体的方策を見える化する。
	イ ホームページや学校案内、Instagramを活用して学校の行事イベント・魅力を発信する。(広報戦略室)	<ul style="list-style-type: none"> Instagramの更新は、1月8日時点で前期83、後期36であった。全先生方のおかげで、学校全体で取り組むことができた。 学校HPのリニューアルにより、内容の見直しや更新が行われ、正確な情報発信をすることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 部活動や学校行事が中心になっているので、日々の活動やLHRなども発信していきたい。また、校内のイベント等もInstagram・ホームページで情報発信をしていきたい。 来年度に向けて固定ページの年度当初の見直し、更新ページは新しい記事や情報発信を心がける。
業務改善と働きやすい職場の構築	ア 共有ファイルを用いて各担当が業務の反省や改善点を記録することで、業務を精選し、次年度への引継ぎが潤滑に行われる。(教務課)	<ul style="list-style-type: none"> 各担当間の伝達のみで行われている引継ぎと、マニュアルのようなものができているものが混在している。 一日体験入学や、オープンスクールなどは反省を含め次年度へ引継ぎが円滑に行われている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、引継ぎに苦労した業務に関しては、引継ぎのメモなどを作り今後の引継ぎが円滑に進むよう努める。
	イ (学校全体として) 組織的な運営や業務遂行ができていると回答する教職員が85%以上。(あり方委員会)	<ul style="list-style-type: none"> 職員学校評価アンケートで「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した教職員は全体の72%であった。5年度は81.8%。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 分掌の統合や業務内容の見直し(行事の精選を含む)を検討することで、教職員の負担を軽減し、じっくりと組織的に業務が遂行できるようにしていく。 また、複数で業務を行う体制づくりや雰囲気づくりを行う。

教育目標達成のための適切な財務執行	<ul style="list-style-type: none"> ア・業務改善提案実践3件以上。 内部統制制度「リスク有り」業務についての発生ミス0件。 複数年の課題解消1件以上。(事務) 	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善提案実践5件：達成 内部統制制度ミス2件発生：未達成 複数年の課題解消2件：達成 	B	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も継続して積極的に実践する。 軽微な内容であるため、次年度は発生防止する。 未解消案件は山積しており、難易度は高いが着実に達成に向けて躊躇することなく取り組んでいく。
-------------------	---	--	---	--

【本校定時制】

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
すべてに優先する安心安全な学校づくり	ア 教員による登下校指導の実施、賀茂地区学校安全ネットワークの活用により、交通事故等を0にする。グッドマナー講習会を通して、生徒の交通安全意識の向上を図り、講習会満足度5段階評価平均4以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故等は0であった。グッドマナー講座の平均は、4.4と高評価であり、興味を持って取り組めた。 登下校指導などで生徒に注意喚起できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から交通安全について意識させることができています。 今後も事故が起こらないように呼びかけなど継続する。
	イ 主権者・人権講座の生徒満足度を5段階評価平均4以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 主権者講座は3.9、人権講座は4.1であった。 グループワークや発表を通して意見を出し合えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 講師の選定も含め、生徒の実態に合わせた講座を計画する。
	ウ いじめアンケートを各学期で実施し、いじめの認知をためらわないとともに、重大事態の発生件数を0にする。	<ul style="list-style-type: none"> アンケートにより重大事態の発生は0であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全教員でいじめの起こらない環境にする。また、いじめの認知をした後にどのように対応していくかを確認する。
	エ 保健関係講座の生徒満足度を5段階評価平均4以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 薬学講座：4.4 ライフスキル講座：4.2 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が3～4年間をとおして多角的に、自他の心身の健康を守るスキルを身につけられるような講座を計画したい。 がん教育・生命の安全教育の内容も取り入れたい。
	オ 日々の健康観察や夏季休業明け個別健康相談を通して生徒の心身の健康状態について把握するとともに、年間3回のケース会議等により教職員間で情報共有を行うことで重大事故を0にする。	<ul style="list-style-type: none"> 左記取組は全て計画通り実施した。 毎日の確実な健康観察を基本に、危機的状況の早期発見・早期対応に努め、重大事故は0であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> SCやSSW、連携特別支援学校等、外部資源を積極的に活用し、生徒理解・生徒支援に繋げた。 継続して助言を得ることが可能な校内体制づくりが課題。

	カ 地震災害を想定した防災訓練を計画的に実施する。地域の組織による防災意識を高める講座を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間に停電を想定した避難訓練を実施。全日制に訓練時の消灯を依頼したが実現しなかった。 ・定時制職員・生徒の防災意識を高めることはできた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制全体としては防災意識を高めることができたが、夜間時に停電が起きた時の状況について、全日制には理解・協力をしてもらう必要がある。
自立心を持った生徒を育てる生徒指導の充実	ア 生徒会を中心に挨拶運動を年間5回実施し、自ら挨拶のできる生徒の割合を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動を実施できた。 ・自ら挨拶のできる生徒の割合は、1学期84%、2学期88%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動を生徒会役員が自らやろうとしていたのがよかった。 ・学校全体で挨拶できるように呼び掛ける。
	イ 個別指導の徹底と日々の呼びかけにより、年間出席率85%以上の生徒が、全校生徒の80%以上になるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間出席率が85%以上の生徒は19人中の12人で、全校生徒の63.2%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全体での出席率としては84.0%であり、多くの生徒が学校に足が向いていることがわかる。 ・引き続き、一つ一つの授業の大切さを呼びかけたい。
	ウ 1か月に1度生活習慣チェックの実施と保健だよりの発行を行い、生徒の自己管理に対する意識向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・左記取組は概ね計画通り実施し個別指導・集団指導へ繋げる機会となった。 ・生徒の自己管理に対する意識向上は引き続き課題であり、継続指導の必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・R6 朝食摂取状況調査結果は23.5%と、R6 定時制生徒県平均(63.2%)を大きく下回っている。 ・HR 担任と連携し、生徒の生活実態を把握しながら、自己管理に対する意識向上に向け継続的にはたらしめていきたい。
	エ 生徒個々の状況を理解し、部活動加入率35%以上を達成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・加入率が50%であり、それぞれ積極的に活動をおこなった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて継続した活動を行えるように声掛けする。
	オ 生徒会活動を通して主体的に活動できる生徒80%以上を達成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートより、活動できる生徒は88.9%であった。 ・生徒が苦手なことにも挑戦することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のできるが増え、自己肯定感が向上した。
多様な生徒に対応した授業の展開	ア 基礎力の向上と定着を図り、基礎力定着テストで全体平均70点以上を達成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体平均は67.7点であり、今年度も達成できなかった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学力が身につけていない生徒が多い。 ・来年度さららの活用による授業時間外での学習を行うことで、基礎的な学力を身につけさせる試みである。

	イ 教員の授業力向上を図り、生徒アンケートで授業満足度（４段階評価）に「満足している」「どちらかと言えば満足している」と答える生徒の割合が80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 11科目中、10科目で80%を超えていたため、おおむね達成できたと感じている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 来年度はすべての科目で目標達成できるよう、はたらきかけていきたい。
	ウ スクーリングは年間計画通り100%実施し、テストは1月上旬までに最終回のテストを受験する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の取り組み状況により変更が生じた時期もあったが、概ね計画通りスクーリング及びテストを実施できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教員の指導に依存することなく、自主的に計画を把握し、進めることができるように促していきたい。
	エ 授業アンケートの「質問しやすい雰囲気での授業に取り組むことができる」、「授業中での発言のしやすさが確保されている」という項目で、「満足している」「どちらかと言えば満足している」と答える生徒の割合が70%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> すべての科目で70%以上に達していた。 達成できたと感じた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中での心理的安全性が保たれていることが、授業アンケートの結果から判断できた。 教員と生徒間での信頼関係が構築されていることを示す結果だと感じる。 来年度以降もこのような関係性を保つことはとても大切であると感じた。
積極的な地域貢献	ア 地域の防災機関と連携し、防災講座を計画・実施して、防災知識と意識を高め、災害時に地域社会に貢献できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 賀茂地域局危機管理課に避難所運営訓練を依頼。 災害時の避難所の状況を理解し、高校生の力が必要だと理解することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校内での取り組みは「A」だと思うが、地域防災訓練の参加は9月が中止、12月はほとんどの生徒が参加できなかった。 今後も参加呼びかけを行う。
	イ Xを1週間に1回以上更新し、定時制の教育活動についてアピールする。学校説明会や公開授業週間の機会を利用して、教育活動を広く周知する。	<ul style="list-style-type: none"> 概ね1週間に1回以上の更新をすることができた。 公開授業週間についても各学期に実施することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 更新の担当を当番制にすることで、各々が責任をもって教育活動のアピールに参画できた。
個に応じた丁寧な進路指導	ア 進路シラバスを充実させ、体系的なキャリア教育を行う。就業状況カードを活用し、在学中及び卒業後の就労に繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> 就業状況カードを記入し、生徒の就業状況を把握することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 様々な調査への回答に活用するだけでなく、把握した情報をもとに生徒への進路指導を行っていきたい。
	イ 進路研修や社会人講話などを通して、在学中から生徒の就労への意識を高める中で、卒業予定者の進路決定率が100%になるよう指導する。また、法人会、振興会と連携し、社会人講話等の機会を設け、生徒の就労支	<ul style="list-style-type: none"> 進路行事を軸に支援を行った。 学校外の機関と連携する中で地域の事業所や様々な働き方を取り上げることができた。 卒業予定者の進路決定率は100%には至っていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 身につけさせたい資質を意識し、行事を設計することができた。 学校外の機関と連携する機会を大事に指導していきたい。 卒業後の進路を見据え、学校全体で様々

	援の充実につなげる。			な場面や機会を設定したい。
学校の組織力を高めるとともに、教職員の資質能力向上の推進	ア 年間を通し、各種研修会、講演会を3回実施し、教職員の資質能力の向上を図る。また、定期訪問を活用し、特別支援教育の視点からの生徒指導について理解を深める。	・年間に各種研修会や講演会を3回以上実施し、定期訪問においては、特別支援教育の視点からの生徒指導について全職員で学ぶことができた。	B	・特別支援教育に関する研修への参加後、担当者との情報共有はできたものの、全教職員との情報共有という点では、あまり十分ではなかったと感じたため、来年度以降、先生方へ情報共有する時間も必要であると感じた。
	イ 特別支援教育・人権教育の研修に、できるだけ多くの教職員が参加し、全職員で情報共有を図る。	・各研修に全員が参加し、知識を深めることができた。	A	・多様な生徒に対応することができるように、今後も研修に積極的に参加する。
働き方の見直しを図り、働きやすい職場の構築	ア 計画的に休暇を取得したり、定時退勤日を設けて心身のリフレッシュを図る。	・夏季休暇やその他の休暇も積極的に取得することができ、リフレッシュを図ることができた。	A	・今後も休暇を気兼ねなく取得できる雰囲気継続していく。
	イ 働きやすい環境を整備し、職員の安全と衛生に配慮する。	・空気清浄機や加湿器を使うなどして衛生環境を整え、職員間で円滑なコミュニケーションがとれている。	A	・今後も気軽に相談できる雰囲気を継続していく。
教育目標達成のための適切な財務執行	ア <ul style="list-style-type: none"> ・業務改善提案実践3件以上。 ・内部統制制度「リスク有り」 ・業務についての発生ミス0件。 ・複数年の課題解消1件以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営予算執行率：上半期30%、第3四半期52%で未達成。庁舎等修繕費は60%であるが緊急度の高い事案は対応済。 ・内部統制制度リスク有の7項目中、2項目でミスがあった。 	B	・予算は引続き迅速な執行を心掛け、リスクはより効果的な防止対策を見直す。

【南伊豆分校】

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
すべてに優先する安心安全な学校づくり	ア 登下校時の交通事故0件。 イ 重大事態発生0件。 ウ いじめアンケート(年3回)。	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の交通事故0件。(自損事故1件) ・重大事態発生0件。 ・いじめアンケートを年3回実施し、いじめ対策委員会によって職員間で情報共有をした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室や登校指導によりマナー向上が図れた。 ・職員全体で日常的に、情報共有を行って重大事態発生を防ぐことができた。 ・弁護士を講師としたいじめ予防に関する授業を実施。

	エ 防災訓練（年2回）。 オ 外部講師による防災教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練は予定通り2回実施できた。 ・外部講師の防災教育も1回実施できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2回目の「火災避難訓練」は出火点確認・初期消火等も含めた総合防災訓練にしたい。
基本的な生活習慣を確立させ、自立心を持った生徒を育てる生活指導の充実	ア 毎朝の登校指導。 イ 職員室入室指導。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の登校指導、職員室入室指導を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・元気よく率先して挨拶ができる生徒が増えた。 ・やり直させる指導が定着、正しい入退室ができる生徒増加した。
	ウ LHR 等でのコミュニケーション能力向上プログラム。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年計画的に実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なプログラムを通しコミュニケーション能力の向上を図ることができた。
	エ 授業を大切にし、学習習慣を身につけ、提出物の期限を遵守する生徒80%以上。 オ 長欠・不登校0、出席率98%以上。 カ 遅刻者数、前年度比50%減 キ マナー・モラル向上（言葉遣い、服装・礼節等）指導（年5回以上）。 ク 定期テスト前生活時間帯調査（年3回以上）。	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物期限を遵守する生徒80%以上は達成できた（特定生徒の改善が乏しい）。 ・長欠生徒4名（内3名退学）、出席率96% ※1、2学期の遅刻者数は35%減（昨年60回、今年39回）。 ・生活時間帯調査は計画通り実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目担当の丁寧な指導、家庭連絡を実施しているが、特定生徒の改善が困難であった。 ・長欠生徒については、担任を中心とした細やかな対応を実施したが、結果、進路変更2名、退学1名となった。1名については現在改善傾向が見られた。 ・生活時間帯調査は生徒の学習状況や生活形態を把握する機会となっており、次年度も継続する。
	ケ 図書館だよりの発行（年3回以上）。 コ 図書室機能向上と貸出数80冊。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館だよりの発行などを進め、図書室の活用を促進した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での図書室や学校図書の利用などを促進したい。
地域の特性を生かし、農業の多面性を活用した学習の展開	ア 地域機関や人材との連携20回以上。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人の農業実践講座を全8回実施した ・こども園との園芸等を通じた交流を10回実施した。 ・地域と連携した学習活動を推進した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域機関や人材との連携により、生徒たちの学習意識を高めることができた。 ・今後も継続していきたい。
	イ 県大会（意見・プロジェクト）各部門出場（3部門）、内入賞（2件以上）。	<ul style="list-style-type: none"> ・農ク県大会（意見・プロジェクト）においてすべての部門に出場（3部門）して、延べ3件が入賞できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習理解を深めるとともに、生徒たちへの学習に対する自信につなげることができた。 ・今後も継続していきたい。

	ウ SDGsの趣旨を踏まえた、地域を重点視野に入れた農業学習の実施。	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な農業や環境づくりを取り入れた実践活動を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特性を踏まえながら今後も推進していきたい。
	エ 施設運用基本計画の策定。 オ 全生徒が授業において施設活用する。	<ul style="list-style-type: none"> 施設の利用計画を立て実施した。 全生徒が授業において施設を活用できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数の変化や老朽化施設などの課題は多く運用方法の工夫や整備を進めていく必要がある。
	カ 公文式等を活用した学び直しの実施。	<ul style="list-style-type: none"> 朝活動での実施が定着化した（8時25分登校も定着化）。 公文式学習に対する生徒の取り組み意識も定着化している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 8時25分登校が定着化し、遅刻抑制につながっている。 朝活動での公文式への取り組み、タブレット使用等が常態化し、生徒も教員もスマートに取り組んでいる。
	キ 令和7年度用のシラバス完成 ク 基礎力テスト後の分析対応検討。 ケ 授業公開週間（年2回以上）。 コ 授業公開への各教員参加（2回以上）。	<ul style="list-style-type: none"> シラバスは年度内に完成見込み。 年2回の公開授業を実施した。 授業時間帯の見廻りにより、各授業における生徒の様子について全職員で共有した。 各テスト（定期、基礎力）の結果を全職員で共有した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 完成見込み。 授業見学では、校内のみでの実施となったが、相互の授業が見学しやすくなるよう、更なる働きかけが必要。 基礎力テストの結果を生かす指導の実施が課題。
積極的な地域貢献と情報発信	ア 地域防災訓練参加率（50%以上）。	<ul style="list-style-type: none"> 参加率は47%であった。 参加生徒は地域等で差があった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 50%以上の参加率は達成したい。 地域防災の意識向上を図っていきたい。
	イ 「総合的な探究の時間」で地域と関わる時間（各学年で2時間以上）。 ウ 生徒の地域交流機会（1日体験ナース等）の情報提供。 エ 生徒の主体的な地域貢献活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な探究の時間」で地域と関わる時間2時間以上を達成。 伊豆下田分校との交流授業を全3回実施した（2、3年生）。 1日体験ナース参加者3名。 情報を提供した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 目標値以上の時間、内容で交流事業が実施でき、生徒の生きた学習になった。次年度も同様の継続が望まれる。 地域との綿密な調整が必要であり改善が望まれる。

	<p>オ 分校だよりの隔月発行。</p> <p>カ ホームページ・インスタグラムの更新（年30回以上）。</p> <p>キ 新聞社等へ取材依頼（年50回以上）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 分校だよりは隔月発行した。ホームページ30回以上、インスタグラムを70回以上更新した。 取材依頼は51回出来た。生徒の活動の取材依頼を報道機関に行い、地域に発信した 	A	<ul style="list-style-type: none"> 外部への情報発信が有効にできた。 分校だよりは可能な限りカラーで発行したい。 報道機関による情報発信により、学校の教育活動に関する理解を深めることができた。 今後も情報発信を積極的に進めていきたい。
個に応じた丁寧な進路指導	<p>ア 職場見学、インターンシップ、進路ガイダンス等の実施。</p> <p>イ 年度末までに進路の方向性を決める生徒（1年60%、2年80%、3年100%）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 計画通りに実施。 現時点で3年生の進路未定者1名。 進路コーナーを新設し情報を積極的に開示、啓発を図る。 履歴書デジタル処理開始。 指定校の開拓。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路意識を喚起、向上する機会となっている。 早期に具体的に方向性を見据える手立てを模索したい。
	<p>ウ 通級巡回指導の実施</p> <p>エ スクールカウンセラーによる年度始めの1分間面談と毎月の個別相談の実施とフィードバック。</p> <p>オ 毎学期の面談、生徒情報の教員間共有。</p> <p>カ 学びの基礎診断を実施し、学び直しによる学力分析。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 通級巡回指導を9月より3名の生徒が実施している。 教育相談アンケート（年度始め、夏季休業明けに実施）をもとに、年度始めに1分間面談を行った。毎月の個別面談とフィードバックも計画的に実施できた。 学びの基礎診断は予定通り実施した。結果は学年ごとに会議で共有した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 通級指導に関して対象生徒の満足度も高く、今後も継続させたい。 新たに教育相談アンケートを取り入れることで、カウンセラーにつなげるべき生徒を把握しやすくなった。 生徒情報を朝の打ち合わせ、職員会議等で共有し、個に応じた適切な指導ができた。 診断結果を具体的に学習指導に生かすための検討が必要。
	<p>キ 役場や法人会、企業等と連携。インターンシップ、職場見学、面接練習の実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 計画通りに実施。 2年インターンシップ報告会を校内発表会の形態へ変更する。 2年志望理由書指導に新規事業を開始。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路意識を喚起、向上する機会となっている。実施時期、連携方法・度合の検討が必要。
学校の組織力を高めるとともに、教職員の資質能力向上の推進	<p>ア 授業改善・観点別評価の研修（年2回）。</p> <p>イ チーム研修（年3回以上）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価研修を実施した。 ハイパーQUの結果分析、発達支持的生徒指導法などの研修会を実施した。 チーム研修を年6回実施した。 成績会議において、教科ごとの評価に関する 	A	<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価について各学期で教科間の話し合いを行い、理解を深めた。今後も整合性がとれた評価となるように研修を行い、授業改善を図りたい。 チーム研修の実施により、課題解決へつ

		振り返りを行った。		なだった。
働き方の見直しを図り、働きやすい職場の構築	ア 夏季休暇以外の年休3日以上を取得者(100%)。	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休暇取得率 100% ・年休3日以上を取得率 100% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・休暇を取得しやすい環境づくりを進める。
	イ 分掌会議の時間を確保し、行事等の見直し実施。 ウ 分掌ロッカーによるファイル管理。	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に一度、分掌会議の時間を設定した。 ・受付文書、会議資料のペーパーレス化推進。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌会議において、今後の業務や年間反省、次年度年間行事の見直しについて話し合った。 ・ペーパーレス化のさらなる推進。
	エ 充実改善要望（実現5件）。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員安全衛生委員会等にて充実改善要望を募り、改善を計画的に行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度6件の改善を図れた。 ・駐車場の整備（照明、白線）。今後もできる限り迅速に対応する。
教育目標達成のための適切な財務執行	<p>ア 業務改善提案実践3件以上。</p> <p>イ 内部統制制度「リスク有り」業務についての発生ミス0件。</p> <p>ウ 複数年の課題解消1件以上。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善提案1件：未達成 ・内部統制制度の発生ミス2件：未達成 ・複数年の課題解消1件（借地返還）：達成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・成果目標は次年度継続とし、本年度の反省を踏えた事務執行を行い達成する。

(2) 令和7年度の取組目標・達成方法・成果目標

【本校全日制】

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
すべてに優先する安心安全な学校づくり	ア 事故、トラブルのない学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒データ等を含む情報データにおいて、情報漏洩等のトラブル防止に加えて、利便性の高い情報システムの構築を行う。（情報データ漏洩等トラブル0件） ・安全に関する教育（ネットワーク犯罪、薬物、盗難等）の徹底。 ・薬物講座、防犯教室を年1回実施。学校生活アンケートを各学期1回実施。 ・学期ごとの環境整備活動の円滑な実施と、生徒の心身強化のサポートを相談室の活動等を通じて行い、安心して学校生活を送れる環境づくりを行う。
	イ 防災体制の充実と教職員・生徒の防災意識向上	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識を高める講座の計画と実施。実際の災害を想定した防災訓練の計画と実施。地域防災訓練参加率70%を目標とする。 ・1年生、2年生は、ふじのくにジュニア防災士知識行動コースを取得する。
グローバルで活躍できる人材の育成	ア 個々の進路希望にあった丁寧な進路指導	<p>【3年間を見通したキャリア教育の実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路シラバス、進路ストーリーを提示し、生徒が3年間を見通した進路学習に取り組めるよう支援をする。 ・理数科生徒の各種研修や実験教室による、グローバルで活躍するための進路明確化支援。 ・生徒の満足度5段階評価で平均4.0以上。 ・生徒が海外で研修する機会を3件以上提供する。 ・年度末のNY研修に向けて10回以上の事前研修を行う。

	イ 生徒の学力向上に向けた授業改善の実践	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びに有効な ICT 機器の整備と研修等を通して、それを多くの教員が有効に活用できる。 年度に 1 回は ICT 活用のための研修を実施する。
主体的、能動的に学ぶ力の育成	ア 自ら考え、実行できる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 【社会に貢献できる「将来の生き方」を考える】 ・「夢講座」「トークフォークダンス」など、外部人材の協力を得ながら、将来と社会との関わりを考える。 ・「総探推進室」「地域連携室」と連携を取り、教科横断的な学び、校外での学びを積極的に推奨する。 ・2年生文系特進クラスにおいて、特進クラスの特色となるプログラムを年3回以上実施する。 ・理数探究の充実による自ら考え、実行できる生徒の育成 ・生徒の満足度5段階評価で平均4.0以上
	イ 社会で活躍できる人間力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間を通して、探究の知識、技能を身につけるとともに、よりよい自己と社会を実現しようとする態度を養った生徒が8割以上。
	ウ 自己肯定感の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況を把握し、生徒の成長を褒めるよう心がけた教員70%以上。 ・減点方法から加点方法への転換を進めた教員50%以上。 ・特別活動、部活動の充実を図る。
学校の組織力を高めるとともに、教職員の資質向上の推進	ア 失敗や改革を恐れない積極的な組織の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営や業務の在り方について、必要に応じて改善のために提案・提言しようとしている教職員が85%以上。
	イ 実効性のある教職員研修の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上、授業力向上のための提案を1回以上行う。 ・それを目標とした研修会等を1回以上行う。 【「下高生3つの力」を身につけ、多様な進路希望に応じた進路実現を目指す】 ・「高校生のための学びの基礎診断」「希望模試」「講習」を実施し、確かな学力を身につける支援をする。 ・「下高進路ストーリー」を軸に、生徒が主体的に進路目標を立て行動する支援をする。
	ウ 特別支援教育・人権教育の推進と心理的安全性に配慮した授業実践	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育全体計画、年間指導計画に従い社会の多様性を理解するところの豊かな生徒を育てる。 ・コンプライアンス研修を踏まえ、学校内での人権に関わる諸事案の情報を共有し、全職員の人権意識が向上する。 ・校内研修計画に沿い、特別支援教育等についての知識理解を深め、多様な生徒に対し適切な対応をとるための資質向上がなされる。
学校魅力化・活性化のための開かれた学校	ア 積極的な地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携を通じて、生徒の未見の可能性を耕し、学びに向かう力の向上を図るとともに、校外での学びを学校内での学びと有機的につなげる。 ・年間10事業以上の実施と毎学期の共有。
	イ 積極的な広報活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや学校案内、Instagramを活用して学校の行事イベント・魅力を発信する。
	ウ ICTを活用した学校間連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・賀茂地区グランドデザインの具現化に向けて、拠点校配信授業の研究を進める。(年度内の進学補講、教養講座、探究学習等での遠隔授業の実践)
学校の働き方改革の推進	ア 学校行事の意義の確認と精選	<ul style="list-style-type: none"> ・体育的行事、文化的行事の意義を見直し、スリム化を図る。 ・今日の教育施策や社会環境の変化、生徒や保護者のニーズを踏まえた行事の検討を進める。
	イ 業務の効率化と協働体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・共有ファイルを用いて、各担当が業務の反省や改善点等を記録することで、業務を精選し、次年度への引継ぎが潤滑に行われる。 ・(学校全体として)組織的な運営や業務遂行ができていると回答する教職員が80%以上

	ウ 教職員のワークライフバランスの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムマネジメントを意識して業務を進め、年次休暇及び特別休暇を積極的に取得した教職員 70%以上。 ・研修日に定時退勤ができた教職員 80%以上。 ・時間外勤務の縮減または業務の効率化や改善を図った教職員 70%以上
信頼される学校づくりの推進	ア コンプライアンス研修の充実と教職員の危機管理意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的(月1回)なコンプライアンス研修の確実な実施。 ・教職員の不祥事発生件数と交通事故発生件数を0件にする。
	イ 事案に応じた計画的な準備と経費の適正執行	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善提案実践3件以上 ・内部統制制度「リスク有り」業務についての発生ミス0件 ・複数年の課題解消1件以上

【本校定時制】

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
すべてに優先する安心安全な学校づくり	ア 事故、トラブルのない学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による登下校指導の実施、賀茂地区学校安全ネットワークの活用により、交通事故等を0にする。 ・グッドマナー講習会を通して、生徒の交通安全意識の向上を図り、講習会満足度4段階評価平均3以上にする。
		<ul style="list-style-type: none"> ・主権者講座・人権講座の生徒満足度を4段階評価平均3以上にする。
		<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを各学期で実施し、いじめの認知をためらわないとともに、重大事態の発生件数を0にする。
		<ul style="list-style-type: none"> ・年3回ケース会議等により教職員間の情報共有を行うことで重大事故を0にする。
		<ul style="list-style-type: none"> ・薬学講座、ライフスキル講座の生徒満足度4段階評価平均3以上にする。
		<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察を毎日確実に実施し、夏季休業明け個別健康相談を通して生徒の心身の健康状態について把握する。
自立心を持った生徒を育てる生徒指導の充実	イ 防災体制の充実と教職員・生徒の防災意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・地震災害を想定した防災訓練を計画的に実施する。地域の組織による防災意識を高める講座を行う。
	ア 積極的な挨拶の励行	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に挨拶運動を年間5回実施し、自ら挨拶のできる生徒の割合を90%以上にする。
		イ 基礎的な生活習慣の確立
ウ 自己肯定感・自己有用感の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の状況を理解し、部活動加入率35%以上を達成する。 ・生徒会活動を通して主体的に活動できる生徒60%以上を達成する。 	
	エ 多様な生徒に対応した授業の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎力の向上と定着を図り、基礎力定着テストで全体平均70点以上を達成する。
多様な生徒に対応した授業の展開	イ 生徒の学力向上に向けた授業改善の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業力向上を図り、生徒アンケートで授業満足度（4段階評価）に「満足している」「どちらかと言えば満足している」と答える生徒の割合が80%以上にする。
	ウ 3修制への積極的な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・スクーリングは年間計画通り100%実施し、テストは1月上旬までに最終回のテストを受験する。
	エ 心理的安全性に配慮した授業実践	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの「質問しやすい雰囲気や授業に取り組むことができる」、「授業中での発言のしやすさが確保されている」という項目で、「満足している」「どちらかと言えば満足している」と答える生徒の割合が70%以上にする。

積極的な地域貢献	ア 地域防災への積極的な参加と地域活性化への協力	<ul style="list-style-type: none"> 地域の防災機関と連携し、防災講座を計画・実施して、防災知識と意識を高め、災害時に地域社会に貢献できるようにする。
	イ 教育活動の積極的広報	<ul style="list-style-type: none"> X を1週間に1回以上更新し、定時制の教育活動についてアピールする。 学校説明会や公開授業週間の機会を利用して、教育活動を広く周知する。
	ウ ICT を活用した学校間連携の研究	<ul style="list-style-type: none"> 「行きたい学校づくり」推進事業(ICT活用)における学校間連携の研究に協力していく。
個に応じた丁寧な進路指導	ア 計画的なキャリア教育の展開	<ul style="list-style-type: none"> 進路シラバスを充実させ、体系的なキャリア教育を行う。 就業状況カードを活用し、在学中及び卒業後の就労に繋げる。
	イ 地元企業等への積極的なアピール及び連携	<ul style="list-style-type: none"> 進路研修や社会人講話などを通して、在学中から生徒の就労への意識を高める中で、卒業予定者の進路決定率が100%になるよう指導する。 法人会、振興会と連携し、社会人講話等の機会を設け、生徒の就労支援の充実につなげる。
学校の組織力を高めるとともに、教職員の資質能力向上の推進	ア 教員育成指標に則した研修充実と組織力を高める研修	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通し、各種研修会、講演会を3回実施し、教職員の資質能力の向上を図る。 定期訪問を活用し、特別支援教育の視点からの生徒指導について理解を深める。
	イ 特別支援教育・人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育・人権教育の研修に、できるだけ多くの教職員が参加し、全職員で情報共有を図る。
働き方の見直しを図り、働きやすい職場の構築	ア 職員の積極的な休暇取得の促進	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に休暇を取得したり、定時退勤日を設けて心身のリフレッシュを図る。
	イ 職場環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> 働きやすい環境を整備し、職員の安全と衛生に配慮する。
信頼される学校づくりの推進	ア コンプライアンス研修の充実と教職員の危機管理意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス通信やコンプライアンス動画等を活用し、グループワーク等を行い、教職員の意識向上を図る。
	イ 事案に応じた計画的な準備と経費の執行を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善提案実践3件以上。 内部統制制度「リスク有り」業務についての発生ミス0件。 複数年の課題解消1件以上。

【南伊豆分校】

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
すべてに優先する安心安全な学校づくり	ア 事故、トラブルのない学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の交通事故0件 ・重大事態発生0件 ・いじめアンケート（年3回）
	イ 防災体制の充実と教職員・生徒の防災意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練（年2回） ・外部講師による防災教育の実施
基本的な生活習慣を確立させ自立心を持った生徒を育てる生活指導の充実	ア 積極的な挨拶の励行	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の登校指導。 ・職員室入室指導。
	イ 特別活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・HR活動等でのコミュニケーション能力向上プログラム。
	ウ 常識ある規範意識や心身の健康を図る意識の向上、自己管理能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を大切にし、学習習慣を身につけ、提出物の期限を遵守する生徒80%以上 ・長欠・不登校0、出席率98%以上 ・遅刻者数、前年度数より減 ・マナー・モラル向上（言葉遣い、服装・礼節等）指導（年5回以上） ・定期テスト前生活時間帯調査（年3回以上）
	エ 図書環境の充実整備と朝読書習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室だよりの発行（年3回以上） ・図書室機能向上と貸出数80冊
地域の特性を生かし、農業の多面性を活用した学習の展開	ア 地域連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域機関や人材との連携20回以上
	イ 農業クラブの積極的活動	<ul style="list-style-type: none"> ・県大会（意見・プロジェクト）各部門出場（3部門）、内入賞（2件以上）
	ウ SDGs活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの趣旨を踏まえた、地域を重点視野に入れた農業学習の実施
	エ スマート農業学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の継続的運用と新たな活用方法の検討。 ・全生徒が授業において施設活用する。
	オ 学び直しによる基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・公文式等を活用した学び直しの実施。
	カ 生徒の学力向上に向けた授業改善の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの改善 ・基礎力テスト後の分析対応検討 ・授業公開週間（年2回以上） ・授業公開への各教員参加（2回以上）
	キ ICTを活用した学校間連携の研究	<ul style="list-style-type: none"> ・各種発表会の積極的な配信等を行い、学校間の連携を深める。
積極的な地域貢献と情報発信	ア 地域行事、地域防災等への積極的な参加	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災訓練参加率50%以上
	イ 一人一人交流の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」で地域と関わる時間（各学年で2時間以上） ・生徒の地域交流機会（1日体験ナース等）の情報提供 ・生徒の主体的な地域貢献活動への参加
	ウ マスコミ等への積極的な情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・分校だよりの隔月発行 ・ホームページ、インスタグラムの更新（年30回以上） ・新聞社等へ取材依頼（年50回以上）
個に応じた丁寧な進路指導	ア 計画的なキャリア教育の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・職場見学、インターンシップ、進路ガイダンス等の実施 ・年度末までに進路の方向性を決める生徒 1年生60%、2年生80%、3年生100%

	イ 特別支援教育の充実及び基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・通級巡回指導の実施 ・スクールカウンセラーによる年度始めの1分間面談と毎月の個別相談の実施とフィードバック ・毎学期の面談、生徒情報の教員間共有 ・学びの基礎診断診断を実施し、学び直しによる学力分析
	ウ 地元企業等への積極的なアピール及び連携	<ul style="list-style-type: none"> ・役場や法人会、企業等と連携。 ・インターンシップ、職場見学、面接練習の実施
学校の組織力を高めるとともに、教職員の資質能力向上の推進	チーム学校と育成指標に基づいた研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善・観点別評価の研修（年2回） ・チーム研修（年3回以上）
働き方の見直しを図り、働きやすい職場の構築	ア 積極的な休暇取得の促進、教職員間の積極的なコミュニケーションを促す	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休暇の全員取得 ・時差勤務の推奨
	イ 精選と改善に向けた業務の記録化	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等の見直し実施 ・分掌ロッカーによるファイル管理
	ウ 職場環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・充実改善要望（実現5件）。
信頼される学校づくりの推進	ア コンプライアンス研修の充実と教職員の危機管理意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修の毎月実施 ・外部関係者も含めた委員会を複数回開き、コンプライアンス意識の徹底を図る。
	イ 事案に応じた計画的な準備と経費の執行を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善提案実践3件以上。 ・内部統制制度「リスク有り」業務についての発生ミス0件 ・複数年の課題解消1件以上

4 監査対象期間における特色ある取組

【本校全日制】

年度	取組概要	成果及び課題
令和6年度	3年間を見通した「総合的な探究の時間」の計画と実践	<ul style="list-style-type: none"> ・学年別テーマに沿って、週1時間取り組んできた。 ・1年生は「100年を創造するチカラ」という教材を用いて企業の取り組んだ課題に対するワークに取り組んだ。 ・2年生は興味関心をもとに班を作り、「探究」の問いを立て、実践し、まとめた。 ・3年生は2年後半から取り組んできた探究活動のまとめを行った。7月には全学年合同の校内発表会を催し、2年生はグループ発表、3年生は個人発表を行った。 ・下級生は上級生の発表を参観することで、次年度へのイメージを持つことができた。
	地域研究課題への取組と国際性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域研究課題への取組としては「総合的な探究の時間」にて実践してきた。 ・加えて企業の主催による「下田MIRAIカレッジプロジェクト」に生徒24名が参加し、下田の抱えている課題を洗い出し、先進地を視察し、解決方法を提案した。 ・地元下田の課題を自分事として捉え、主体的に課題解決に取り組もうとする力が生徒に芽生えた。 ・国際性の育成としては海外で研修する機会の提供を積極的に行ったことで、昨年度に引き続き、モンゴル国・ドルノゴビ県高校生交流事業、海外インターンシップ（インドネシア）にそれぞれ1名が参加することができた。

	地域、世界、グローバルに活躍できる人材の育成を目指した理数科教育	<ul style="list-style-type: none"> ・県のサイエンススクール事業として、以下のような取り組みを行い、生徒の理数分野への関心を高めながら、問題発見と課題解決の基礎を培うことができた。 <ul style="list-style-type: none"> ・1年生 伊豆研修 校内研修（放射線実習） ・2年生 理数探究と校内中間発表会 ・3年生 理数探究英語発表会
令和7年度	3年間を見通した「総合的な探究の時間」の計画と実践	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度3年間を見通した活動の完成年度を迎えた。その活動を振り返り、微修正を加えながら、3年間での一連の活動の定着を目指している。 ・学年別テーマに沿って、週1時間取り組んできた。 ・1年生は「100年を創造するチカラ」という教材を用いて企業の取り組んだ課題に対するワークに取り組んだ。その後、従来の「下田市そうぞう計画」をバージョンアップさせた。 ・2年生は興味関心をもとに班を作り、「探究」の問いを立て、実践し、まとめた。この個人探究は3年7月まで期間を延ばした。 ・3年生の7月には全学年合同の校内発表会を催し、2年生はグループ発表、3年生は個人発表を行った。 ・下級生は上級生の発表を参観することで、次年度へのイメージを持つことができた。 ・また、3年生の中には、個別探究を進路実現に活かすことができる生徒もいる。
	地域研究課題への取組と国際性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・下田 MIRAI カレッジにてプログラミングを通じた地域課題解決を行っている。 ・賀茂ジモト大学では、賀茂地区の高等学校で協力して探究コンソーシアム構築に向けてのプラットフォームづくりと、生徒の探究活動の支援を行っている。 ・探究ワークショップでは、賀茂地区の代表生徒に受講してもらい、その経験やスキルを、各学校での探究活動に還元することを狙いとしたリーダー育成を試みている。 ・アオハルし放題では、生活科学部が地域課題を食につなげて解決に向けて探究する取り組みを行い、高い評価を受けている。 ・下田高校海外研修は、隔年実施であり、今年度は令和8年3月に25名が参加予定であり、事前研修など準備をすすめている。 ・駅からハイキングでは、JR東日本との共同企画で、生徒が、地元の宣伝を兼ねてハイキングコースを設定し、地域貢献につながる活動を行っている。 ・慶応大学、東京学芸大学等との大学連携も行っている。
	地域、世界、グローバルに活躍できる人材の育成を目指した理数科教育	<ul style="list-style-type: none"> ・県のサイエンススクール事業として、以下のような取り組みを行い、生徒の理数分野への関心を高めながら、問題発見と課題解決の基礎を培うことができた。 <ul style="list-style-type: none"> ・1年生 伊豆研修 校内研修（放射線実習） ・2年生 理数探究と校内中間発表会 ・3年生 理数探究英語発表会 ・また、1, 2年生が中学生を対象とした科学実験講座を行った。また、10月に1泊2日で県外研修を2学年合同で実施し、大学などの研究機関や施設を訪問した。 ・フィールドワークによる理科探究では、小中学生を中心に、農業をテーマとしてフィールドワークや実験をとおした探究活動を行った。
	主体的・能動的に学ぶ力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生文系特進クラスの校外活動では、昨年度は静岡地方裁判所にて模擬裁判、下田市議会見学、稲生沢こども園と稲生沢小学校の園児、児童を対象としたキッズイングリッシュを実施した。 ・今年度は、下田市議会見学、金融経済セミナーを実施し、生徒が今後主体的に学んでいくための校外活動を積極的に実施した。

【本校定時制】

年度	取組概要	成果及び課題
令和6年度	基礎学力の定着を図るためのテストの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・年間5回、国語を始めとする7教科の基礎力定着テストを実施した。 ・一定の点数に満たない生徒には個別指導や追試を実施するなど、生徒全員の基礎学力向上を目指した。 ・目標を果たせるよう今後も継続的かつ発展的に取り組んでいく。
	卒業時点での進路未決定者を0にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の4月に全生徒を対象とした進路希望調査を行った。 ・未定の生徒が多い傾向がありながらも、卒業後は首都圏を中心とした地域への就職や進学を目指す生徒が多い状況が見受けられた。 ・卒業後の進路に対し、明確な意思や目標・希望を生徒に持たせるために、伊豆下田法人会と連携し、進路研修、社会人講話・座談会等を実施した。 ・いずれも進路を考えることに留まらず、普段暮らしている賀茂地域を捉えなおすことにつながる機会であった。 ・このような学校行事と平行し、各担任が生徒と面談等を行うことで卒業年次の生徒に対しては進路決定を促すこと、その他の生徒に対しても、希望や考えを明確にさせることに寄与していく。
	ICTを活用した授業改善を推進し、教育の質の充実化	<ul style="list-style-type: none"> ・県から配備されたChromebookを授業等で活用した。 ・調べ学習のみならず生徒が発表を行う際に、スライド等を作成して取り組ませた。 ・特にAI学習教材を使用する上でも活用し、さらなる活用を模索している。
	生徒の自主性を養う教育	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学校行事において、生徒会執行部や委員会が主体となって事前準備から当日の運営まで行った。 ・小中学校で人前に立ったことが少ない生徒がほとんどで、失敗も多い。 ・しかし、たくさんの経験を積ませることで、徐々に自信をつけさせ、教員の補助を最小限にして生徒主体で運営できるよう指導していく。
	「AI学習教材すらら」を活用した個別最適な学びへのトライ	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度を試行の年と位置付け、「AI学習教材すらら」を試験的に導入している。 ・個人のつまづきに応じた学びができるように、5教科において授業等で活用し、活用の仕方を模索している。
令和7年度	基礎学力の定着を図るためのテストの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・年間5回、国語を始めとする7教科の基礎力定着テストを実施している。 ・一定の点数に満たない生徒には個別指導や追試を実施するなど、生徒全員の基礎学力向上を目指している。 ・目標を果たせるよう今後も継続的かつ発展的に取り組んでいく。
	卒業時点での進路未決定者を0にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の4月に全生徒を対象とした進路希望調査を行った。 ・未定の生徒が多い傾向がありながらも、卒業後は首都圏を中心とした地域への就職や進学を目指す生徒が多い状況が見受けられた。 ・卒業後の進路に対し、明確な意思や目標・希望を生徒に持たせるために、伊豆下田法人会と連携し、進路研修、社会人講話・座談会を実施した。 ・いずれも進路を考えることに留まらず、普段暮らしている賀茂地域を捉えなおすことにつながる機会であった。 ・このような学校行事と平行し、各担任が生徒と面談等を行うことで卒業年次の生徒に対しては進路決定を促すこと、その他の生徒に対しても、希望や考えを明確にさせることに寄与していく。
	ICTを活用した授業改善を推進し、教育の質の充実化	<ul style="list-style-type: none"> ・県から配備されたChromebookを授業等で活用している。 ・調べ学習のみならず、生徒が発表を行う際に、スライド等を作成して取り組ませるなど、活用を模索している。

生徒の自主性を養う教育	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学校行事において、生徒会執行部や委員会が主体となって事前準備から当日の運営まで行っている。 ・小中学校で人前に立ったことが少ない生徒がほとんどで、失敗も多い。 ・しかし、たくさんの経験を積ませることで、徐々に自信をつけさせ、教員の補助を最小限にして生徒主体で運営できるよう指導していく。
「A I 学習教材すらら」を活用した個別最適な学びへのトライ	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度を試行の年と位置付け、「A I 学習教材すらら」を試験的に導入している。 ・個人つまづきに応じた学びができるように、5教科において授業等で活用し、活用の仕方を模索している。

【南伊豆分校】

年度	取組概要	成果及び課題
令和6年度	南伊豆分校魅力化推進協議会との連携したキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育推進を図るために、さらなる地域連携を進め、学校魅力化を図るカリキュラム・マネジメントを作成し実施している。 ・2年生のインターンシップを10月に実施し、事前と事後指導の充実を図っている。 ・特に「働く」ことについて生徒と地域事業主が話し合う「インターンシップ交流会」を9月4日に実施した。また、インターンシップを10月16日から18日に行った後、報告会を11月20日に実施した。 ・9月に3年生就職希望者を町が連携するキャリアコンサルタント（YKK株式会社より派遣）と模擬面接を実施した。 ・このキャリア教育は「総合的な探究の時間」に組み入れて長期にわたって実施できるよう取り組んでいる。
	エビデンスに基づいた学習指導と生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「へき地・小規模校教育における『令和の日本型学校教育』への挑戦～分校生の可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」のテーマで、令和3年度の「はごろも教育研究助成賞」（3年間）の取り組み研究を受け、令和6年度実践展開している。 ・主に3つの取組を実施している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ハイパーQU（よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート）の導入と分析会を実施する。 ・学びの基礎診断として、「基礎力測定診断（学研模試）」を実施する。 ・公文式学習を年間を通して実施し、生徒ひとり一人にあわせた学び直しを実施。 ・これまで、教員個々で行っていた取り組みに民間のシステムを導入する事で、生徒の様子をデータ化して、エビデンスに基づいた教育を実施し、3年間の経年変化を基にして日課表に位置付けた「朝活動」として、タブレット端末を活用した公文式学習を行っている。
	地域や本校と連携した高校魅力化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・県のオンリーワン・ハイスクール（フューチャー・ハイスクール）の研究成果を基に、さらに地域や本校と連携した高校の魅力化を推進した。ー <p>【教職員研修】</p> <p>7月にハイパーQU（よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート）の分析会を基に、よりよい学級づくりへの方策を学年ごとに分かれて研修会を行った。</p> <p>10月、静岡大学教育学部特別支援教育専攻 山元薫准教授を講師に、「授業のユニバーサル化」をテーマとした研修会を実施した。</p> <p>【芸術鑑賞会】</p> <p>11月12日に下田高校で行われる芸術鑑賞会にバスを借り上げて生徒全員参加した。</p>
	農業教育の核と位置づけるプロジェクト学習向上と農業クラブ活動の更なる活性化に繋げ、成果・実績を上げる指導の継続	<ul style="list-style-type: none"> ・以前より学校農業クラブ活動に力を入れ指導している。 ・生徒は、先輩の意思を引き継ぎ「自分たちも」と志を高く持ち、プロジェクト学習に取り組んでいる。 ・県のスマート専門高校推進事業により、ベビーリーフの水耕栽培温室（植物工場）が設置され、農業学習のさらなる深化を図っている。 ・カーネーション温室や植物工場により、GAP（生産工程管理）教育を推進するなど、生産物を通じた地域連携や「大人のための農業実践講座」の方々との交流によってプロジェクト学習をより一層充実させている。

	<p>地域連携事業としてこども園、地元小中学校等と交流を継続し、地域連携型学習を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する認定こども園との交流(園芸保育)に加えて、隣接小学校との食育連携事業の交流活動を継続実施することができている。 ・これに加えて隣接する中学校とも野菜栽培を通して交流活動を実施することで、幼小中高連携ができ、地域のこども全体の成長につなげるとの評価を頂き、町教育委員会等の機関からの支援も厚い。 ・令和6年度からは園芸を活用した地域商品の開発を目指した南伊豆町立南上小学校との交流連携を新規で展開している。 ・また学校農業クラブ活動では、地元、JA富士伊豆営農指導部の職員、JA所属の部会員と連携し、地域発展に繋げるプロジェクト活動を実施できている。 ・南伊豆町の食育推進団体「南豆味会」との食育活動(一人暮らしを意識した食事作り)を行った。
<p>令和7年度</p>	<p>南伊豆分校魅力化推進協議会との連携したキャリア教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育推進を図るために、さらなる地域連携を進め、学校魅力化を図るカリキュラム・マネジメントを作成し実施している。 ・2年生のインターンシップを10月15日に実施し、事前と事後指導の充実を図る。特に「働く」ことについて生徒と地域事業主が話し合う「インターンシップ交流会」を9月3日に南伊豆町湯けむりホールで実施した。インターンシップを10月15日から17日に行った後、報告会を11月19日に実施する予定である。 ・9月4日に3年生就職希望者を町が連携するキャリアコンサルタント(YKK株式会社より派遣)と模擬面接を実施した。 ・このキャリア教育は「総合的な探究の時間」に組み入れて長期にわたって実施できるよう取り組んでいる。
	<p>エビデンスに基づいた学習指導と生徒指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「へき地・小規模校教育における『令和の日本型学校教育』への挑戦～分校生の可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」のテーマで、令和3年度の「はごろも教育研究助成賞」(3年間)の取り組み研究を受け、令和7年度も実践展開している。 ・主に3つの取組を実施している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ハイパーQ U (よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート)の導入と7月11日に分析会を実施した。 ・学びの基礎診断として、「基礎力測定診断(学研模試)」を5月20日から22日に実施した。 ・公文式学習を年間を通して実施し、生徒ひとり一人にあわせた学び直しを実施している。 ・これまで、教員個々で行っていた取り組みに民間のシステムを導入する事で、生徒の様子をデータ化して、エビデンスに基づいた教育を実施し、3年間の経年変化を基にして日課表に位置付けた「朝活動」として、タブレット端末を活用した公文式学習を行っている。
	<p>地域や本校と連携した高校魅力化の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県のオンリーワン・ハイスクール(フューチャー・ハイスクール)の研究成果を基に、さらに地域や本校と連携した高校の魅力化を推進した。 <ul style="list-style-type: none"> 【教職員研修】 <ul style="list-style-type: none"> ハイパーQ U (よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート)の分析会(7月11日実施)を行い、よりよい学級づくりへの方策を学年ごとに分かれて研修会を行った。 10月7日、静岡大学教育学部特別支援教育専攻の山元薫准教授を講師に授業での生徒の様子を見学していただき、「授業のユニバーサル化」をテーマとした研修会を実施した。 【芸術鑑賞会】 <ul style="list-style-type: none"> 11月11日に本校で行われる芸術鑑賞会に生徒全員がバス移動し、参加する予定である。 【農産物品評会】 <ul style="list-style-type: none"> 令和8年1月17日に農林技術研究所・賀茂農林事務所・JA・地元農家などと連携し、農産物品評会を実施する。

<p>農業教育の核と位置づけるプロジェクト学習向上と農業クラブ活動の更なる活性化に繋げ、成果・実績を上げる指導の継続</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も学校農業クラブ活動に力を入れ指導している。 ・生徒の主体性を育てることを意識し、課題研究の授業などを活用し、新規研究を立ち上げるグループや先輩の研究を引継ぎより深めるグループなどプロジェクト学習に取り組んでいる。 ・プロジェクトの成果（発表）は賀茂地区3校へ配信し、情報共有をおこなう予定である。 ・県のスマート専門高校推進事業により、水耕栽培温室（植物工場）が設置され、生産だけでなく商品開発や販売促進などの研究へとさらなる深化が図られている。 ・カーネーション温室や植物工場により、GAP（生産工程管理）教育を推進するなど、生産物を通じた地域連携や「大人のための農業実践講座」の方々との交流によってプロジェクト学習をより一層充実させている。
<p>地域連携事業としてこども園、地元小中学校等と交流を継続し、地域連携型学習を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源活用などの授業を通して、隣接する認定こども園との交流（園芸保育）に加えて、隣接小学校との食育連携事業の交流活動を継続実施することができている。 ・これに加えて隣接する中学校とも野菜栽培を通して交流活動を実施することで、幼小中高連携ができ、地域のこども全体の成長につなげるとの評価を頂き、町教育委員会等の機関からの支援も厚い。 <ul style="list-style-type: none"> ○農業クラブ活動では、JA富士伊豆営農指導部の職員、JA所属の部会員と連携し、地域発展に繋げるプロジェクト活動を実施している。 ○ライフデザイン部（食品製造班）が南伊豆町とも連携し「フェスタ南伊豆」などの活動に参加し、地域貢献活動を行っている。 ○3年生が南伊豆町の食育推進団体「南豆味会」と連携し、食育活動（一人暮らしを意識した食事作り）を行っている。

5 教職員について

(1) 令和6年度異動状況

(単位：人)

所 属	職名 区分	本務職員											臨時・会計年度任用職員					合 計						
		教育職員						事務職員					教 諭	実 習 助 手	非 常 勤 講 師	非 常 勤 勞 務 職 員	生 産 物 管 理 嘱 託 員		臨 時 計					
		校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	実 習 助 手	小 計	事 務 長	主 幹	主 査	主 任								主 事	主 任 技 能 員	小 計	本 務 計	
本 校 全 日 制	転出者		1	1	4	1	7	1					1			2	9	1	1				2	11
	退職者																							
	再任用 (退職者)																							
	転入者		1	1	2		4	1	1						2	6								6
	新任者				1	1	2								2									2
	再任用 (新任)				1		1								1									1
	差引増減									1		△1					△1	△1					△2	△2
本 校 定 時 制	転出者			1			1								1								1	
	退職者				1		1								1								1	
	再任用 (退職者)																							
	転入者			1			1								1								1	
	新任者				1		1								1								1	
	再任用 (新任)																							
	差引増減																							
南 伊 豆 分 校	転出者				3		3								3								3	
	退職者		1				1								1			2				2	3	
	再任用 (退職者)											1	1	1									1	
	転入者		1		2		3								3								3	
	新任者																1	1	1			3	3	
	再任用 (新任)																							
	差引増減				△1		△1						△1	△1	△2		1	△1	1			1	△1	

(2) 現員数 (令和7年10月31日現在)

(単位：人)

所 属	職名	本務職員											臨時・会計年度任用職員					合 計							
		教育職員						事務職員					教 諭	研 修 指 導 員	実 習 助 手	外 国 語 指 導 講 師	非 常 勤 講 師		非 常 勤 勞 務 職 員	生 産 物 管 理 嘱 託 員	臨 時 計				
		校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	実 習 助 手	小 計	事 務 長	主 幹	主 査	主 任										主 事	主 任 技 能 員	小 計	本 務 計
本校全日制		1	1	1	34	1	1	39	1	1	1		1		4	43		1	1	5	2		9	52	
本校定時制				1	8	1	10						1	1	11					1			1	12	
南伊豆分校			1	1	9	1	1	13					1	1	1	3	16		1		4	2	1	8	24

再任用職員 38時間45分勤務(フル) 1人 19時間25分(ハーフ) 1人

(3) 健康管理について

【本校・南伊豆分校】

ア 健康管理の増進について

生活習慣病健診や人間ドック等の完全受診を心掛け、併せて健康管理医や各主治医の指導のもとに職員自らが健康管理に目を向け、病気の早期発見・早期治療を実施するように努めている。今後も引き続き健康管理に係る体制の整備と意識高揚に努める。

イ 職員対象保健指導について

日常の業務を通して、職員の健康観察を行うとともに、教職員のインフルエンザ予防接種の推進など教職員の健康問題について注意喚起し、健康保持の拡充を図っている。また、必要に応じて健康管理・増進に関する情報提供を行っている。

ウ 職員安全衛生委員会について

衛生管理者、保健主事、健康管理医等が連携し、職員安全衛生委員会を組織・運営している。職員の健康問題について検討するとともに、臨時の健康問題発生の際にも迅速に協議し、職員の健康保持・増進を図っている。また、職場環境の維持改善について情報共有と検討を進め、安全で安心できる職場環境の構築を目指している。

エ その他

教職員の多忙化解消と心身の健康維持に向けた取り組みとして、本年度も2か月に1回程度研修日を設け、午前授業、午後会議や研修、定時退勤とした。期末テストの翌日は採点日とし、生徒は家庭学習としている。また、本年度途中から教職員の最終退勤時刻を設定した。

(4) 教職員の研修について

【本校全日制】

<令和6年度>

研修の目的	研修内容及び成果	課 題
特別支援教育についての知識と理解を深め、多様な生徒に対し適切な対応を取ることができるようになる。	6月、特別支援学校の教員2名を講師として全教員対象の研修会を実施した。講演や個別相談で難聴や色覚異常の生徒に対する授業やホームルームにおける支援、指導等について知識と理解を深めた。 10月、定期訪問の中で総合教育センターの指導主事を講師として全教員対象の研修会を実施した。特別支援教育の視点を踏まえ「困り感」を持つ生徒の指導について、共通理解を図ると同時に支援方法を演習を通じて検討し、チームで対応することを学んだ。	「困り感」を持つ生徒に対し、どこまで指導し、どこまで支援するのか、そのさじ加減が難しいところがある。多くの教員で情報を共有し、チームとして対応にあたることを徹底していきたい。

<令和7年度>

研修の目的	研修内容及び成果	課 題
学習評価に基づいた授業改善	各教科で様々な工夫を進めているが、教科間で評価の観点や基準にズレが生じていることが課題となっている。とくに、同一教科内でも習熟度別に分かれている授業において、評価方法の共有が十分とはいえず、教員間での共通理解の形成が求められている。そこで、評価規準を見直し、生徒の課題やミスに着目する評価から、達成した成果や成長の過程を肯定的に捉える評価への転換を意識した授業改善を目指したいと考えている。そのためには、観点別評価の趣旨を踏まえ、評価の観点が明確な授業実践例や、生徒の学びを可視化し適切に評価する具体的な事例を研修材料として、教員の理解と実践力を高め、指導と評価の一体化を図るきっかけとなった。	今年度の研修テーマ「学習評価に基づく授業改善」では、単なる授業の振り返りにとどまらず、教科内で同一テーマに基づく意見交換を行い、共通のゴールに向けて演習できたことが大きな成果である。また、下田高校は若手教員が多く、指導力向上とともに、組織としての育成体制確立が求められる。今回の研修や定期訪問を通じて、授業改善の視点を共有し学び合うことは、個々の力量形成のみならず学校全体の授業力向上につながる。さらに、定期訪問を効果的に活用することは、若手教員にとって学びを深める場であり、授業への意識を高める契機となっている。今後も研修と組織的支援を結び付けることで、教員の成長と学校全体の教育力向上がのぞまれる。

【本校定時制】

<令和6年度>

研修の目的	研修内容及び成果	課 題
特別な支援を要する生徒の困り感について確認し、特別支援教育の考えを取り入れた指導と支援方法について考える	総合教育センターの定期訪問時に著しく学力の低い生徒への授業における具体的な対応の事例を研修した。	本校には特別な支援が必要とされる生徒が複数おり、SC や SSW、特別支援学校や精神科医とも連携を図りながら何とか対応した。今後も外部の専門機関との連携は必要不可欠であると考えている。学習面においては、小中学校時代の不登校が原因で基礎学力が著しく低い生徒への対応が課題があるとわかった。学習障害との判別が難しいが、授業における個別対応等の必要性を感じている。

<令和7年度>

研修の目的	研修内容及び成果	課 題
特別な支援を要する生徒の困り感について確認し、特別支援教育の考えを取り入れた指導と支援方法について考える	総合教育センターの定期訪問時に、「発達支持的な生徒指導の充実」について研修を行った。	本校には特別な支援が必要とされる生徒が複数おり、SC や SSW、特別支援学校や精神科医とも連携を図りながら何とか対応している。今後も外部の専門機関との連携は必要不可欠であると考えている。学習面においては、小中学校時代の不登校が原因で基礎学力が著しく低い生徒への対応が課題となっている。学習障害との判別が難しいが、授業における個別対応等の必要性を感じている。

【南伊豆分校】

<令和6年度>

研修の目的	研修内容及び成果	課 題
授業力向上、授業改善と生徒の学習支援を目的に研修を実施	県総合教育センター高等学校支援課の学校(定期)訪問を12月4日に実施した。公開授業、教科「農業」「地歴公民」の研究授業、校内研修(特別支援教育の視点からの指導と支援)を行った。	生徒の状況を鑑み各教科でシラバスをの改善を図る。 多様化する特別支援に対する専門的な知識や理解を基にした対応が課題である。

<令和7年度>

研修の目的	研修内容及び成果	課 題
授業力向上、授業改善と生徒の学習支援を目的に研修を実施	県総合教育センター高等学校支援課の学校(定期)訪問を6月16日に実施した。教科「農業」「国語」の研究授業、教科別研修、校内研修(発達支持的な生徒指導の充実)を行った。	生徒の実情に合わせ年間指導計画・シラバスの改善を図る。 農業・体育などの活動を中心とする授業では、熱中症対策を意識した授業内容の改善が必要である。 発達支持的な生徒指導に対する専門的な知識や理解を深めることが課題である。

6 防災対策について

地震等の災害による被害を最小限にするため、地震防災計画を策定し職員に周知するとともに、防災意識の高揚と避難行動の迅速化を目的に、生徒・職員を対象に訓練等を実施している。

【本校全日制】

<令和6年度>

達成目標	実績(成果)と課題
防災意識を高める講座の計画と実施。実際の災害を想定した防災訓練の計画と実施。地域防災訓練参加率70%を目標とする。	4月に賀茂地域局危機管理課の方を講師に招き、防災演習「クロスカード」を実施した。引き続き、地震を想定した防災訓練を実施した。生徒を迅速かつ安全に避難させる訓練を通して、災害時の避難経路を把握させるとともに職員の行動も確認し直した。 7月に火災を想定した防災訓練を実施した。生徒を安全に避難させる訓練を通して、火災発生時の避難経路を把握させるとともに職員の行動も確認し直した。 8月に校内に備蓄してある防災物品の確認、点検を行った。 9月に賀茂地域局危機管理課と下田土木事務所企画検査課の方を招き、1・2年生対象に防災講座を実施した。生徒は風水害について正しい知識を学び、防災意識を高めるとともに、被災時に何ができるかを考える機会となった。 11月全校で緊急地震速報の訓練に参加し、大規模地震発生時の初期対応の確認を行った。 この地域で大規模地震や風水害が起こった場合、陸の孤島と化してしまうことが考えられる。被害を食い止めるために学校として具体的にどのような備えをすべきか、関係機関と具体的な話し合いをしていきたい。

<令和7年度>

達成目標	実績（成果）と課題
防災意識を高める講座の計画と実施。実際の災害を想定した防災訓練の計画と実施。地域防災訓練参加率70%を目標とする。	<p>4月と9月に、賀茂地域局危機管理課と連携し、1・2年生対象にふじのくにジュニア防災士「知識行動コース」の防災講話と防災演習（HUG）を実施した。生徒は防災について正しい知識を得て、防災意識を高めることができた。また、被災時に何ができるかを考える貴重な機会となった。</p> <p>4月に地震を想定した防災訓練、7月に校内での火災を想定した防災訓練をいずれも全校で実施した。生徒を迅速かつ安全に避難させる訓練を通して、避難方法や経路を確認させた。</p> <p>8月に担当で防災備蓄品等の確認、点検を実施した。また、県教委主催で被災地訪問に2名の生徒が参加し現地で研修を受けた。その報告を10月に全校生徒に対して発表した。12月には南伊豆町で発表予定である。</p> <p>9月に教職員救急法研修を実施した。下田消防本部の方を講師に招き、教職員は心肺蘇生法等の一次救命処置について学び、緊急時への対応に備えた。</p>

【本校定時制】

<令和6年度>

達成目標	実績（成果）と課題
地震災害を想定した防災訓練を計画的に実施する。地域の組織による防災意識を高める講座を行う。地域の防災機関と連携し、防災講座を計画・実施して、防災知識と防災意識を高め、災害時に地域社会貢献できるようにする。	夜間に地震が起き、停電になったことを想定し、スマホのライトを使用して避難訓練を行った。全日制の教員や生徒が活動していたため、完全な暗闇での実施はできなかったが、良いシュミレーションになった。賀茂地域防災局機器管理課による防災講座では、HUG（避難所運営防災ゲーム）を行い、生徒の防災意識を高めることができた。

<令和7年度>

達成目標	実績（成果）と課題
地震災害を想定した防災訓練を計画的に実施する。地域の組織による防災意識を高める講座を行う。地域の防災機関と連携し、防災講座を計画・実施して、防災知識と防災意識を高め、災害時に地域社会貢献できるようにする。	夜間に地震が起き、停電になったことを想定し、スマホのライトを使用して避難訓練を行った。全日制の教員や生徒が活動していたため、完全な暗闇での実施はできなかったが、良いシュミレーションになった。賀茂地域防災局機器管理課による防災講座では、HUG（避難所運営防災ゲーム）を行い、生徒の防災意識を高めることができた。また、起震車を利用し地震の怖さ体験することにより、普段の生活環境から防災を見直すきっかけを作った。

【南伊豆分校】

<令和6年度>

達成目標	実績（成果）と課題
すべてに優先する安心安全な学校づくりのため、防災体制の充実を図る。	年2回防災訓練を計画、第1回目は7月19日に巨大地震を想定した訓練を実施した。本年度は避難訓練後に全生徒に地震車体験をさせることができ、防災意識の向上を図った。12月20日には火災を想定した2回目の訓練を実施し、合わせて外部講師による防災教育も行った。今後は、生徒の登下校時の避難指示発令等への対応等を検討する。

<令和7年度>

達成目標	実績（成果）と課題
すべてに優先する安心安全な学校づくりのため、防災体制の充実を図る。	年2回防災訓練を計画している。 第1回目は、事前（7月1日）に気象災害・地震への対応ということで学校配信システム（マチコミ）を活用した受信確認を行い、7月18日に巨大地震を想定した防災訓練を実施した（生徒への予告なし）。 第2回目は、12月19日に火災を想定した訓練を予定している。合わせて外部講師による防災教育も実施する。 今後は、生徒の登下校時と家庭における避難指示発令等への対応等を検討していく。

7 学校施設について

学校施設を地域に開放し、地域住民の社会教育活動、文化活動、スポーツ活動などの振興に貢献している。

<施設の開放状況>

【本校】

(令和7年10月31日)

年度	施設名	利用目的	利用団体数	利用回数	利用人数 (延人数)	利用者負担金
6	体育館 武道場 テニスコート プール	剣道、 合気道、 卓球、 ソフトテニス、 消防水難救助訓練	9	回 558	人 5,972	円 89,141
7	体育館 武道場 テニスコート プール	剣道、 合気道、 卓球、 ソフトテニス 消防水難救助訓練	9	367	3,974	56,495

【南伊豆分校】

(令和7年10月31日)

年度	施設名	利用目的	利用団体数	利用回数	利用人数 (延人数)	利用者負担金
6	体育館	少林寺拳法	1	82	508	21,088
7	実績なし					

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関すること	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第50条、第51条、第52条、第60条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立高等学校学則 高等学校学習指導要領 理科教育振興法（第11条） 理科教育振興法施行令 産業教育振興法（第18条） 産業教育振興法施行令
2 学校の管理・運営に関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 教育公務員特例法（第21条、第22条） いじめ防止対策推進法（第8条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県立学校管理規則 静岡県教育委員会処務規程 静岡県立学校の授業料等の徴収に関する条例 静岡県立学校授業料等徴収規則 高等学校等就学支援金の支給に関する法律 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行令 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行規則 静岡県手数料徴収条例 静岡県高等学校等教育資金及び高等学校等奨学金貸与規則 高等学校遠距離通学費補助金交付要綱 高等学校等修学支援事業費補助金(奨学のための給付金)交付要綱 高等学校定時制の課程及び通信制の課程修学補助金交付要綱 静岡県情報公開条例施行規則 独立行政法人日本スポーツ振興センター法(第16条、第17条) 社会教育法（第43条、第44条、第45条、第47条）

□□□□□□

学 校 施 設 の 概 要

(本校)

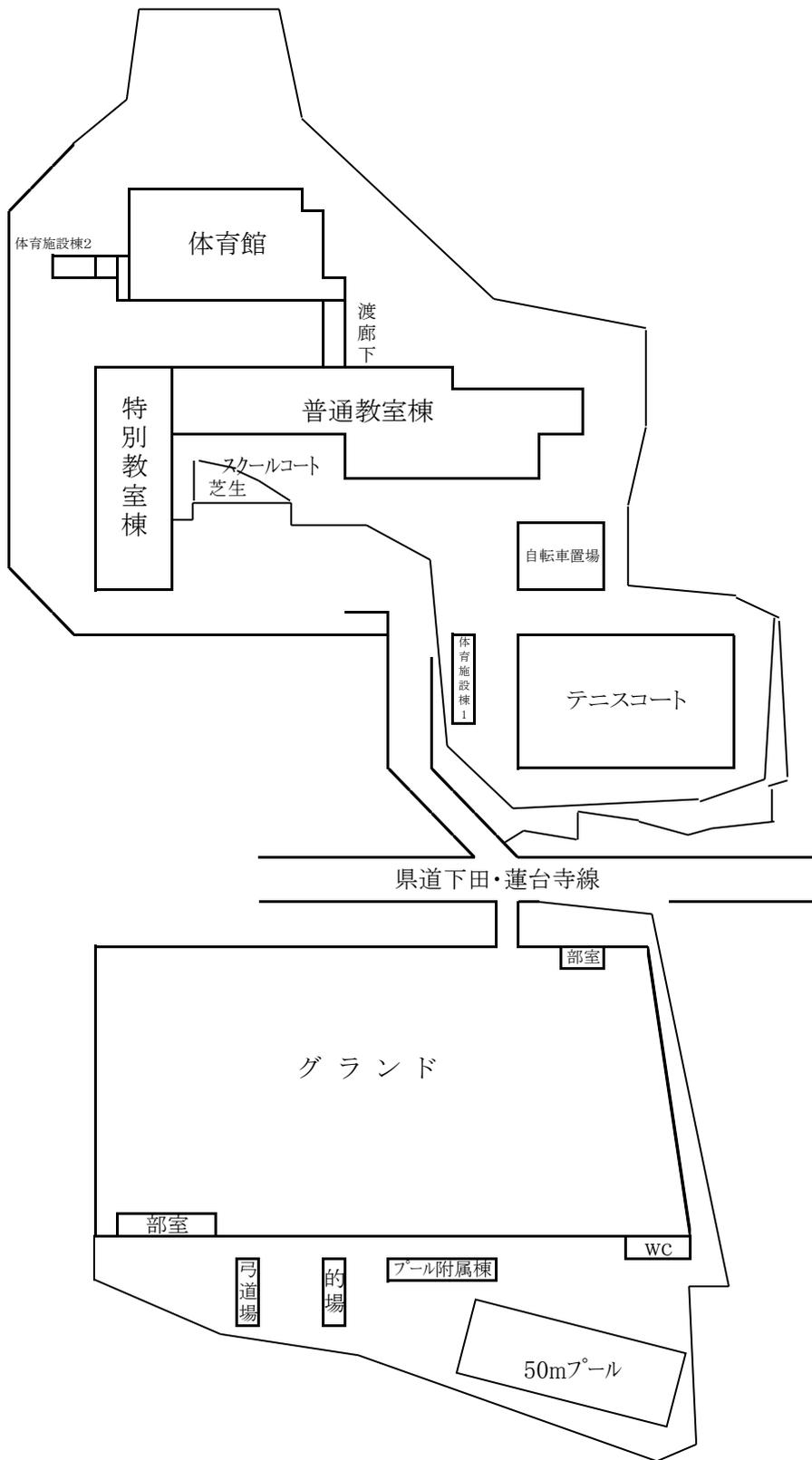
1 面積及び所有区分

(令和7年10月31日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地	38,904.97	38,904.97					
内 訳	校舎敷地	14,806.24	14,806.24				
	運動場敷地	19,822.35	19,822.35				
	その他の敷地	4,276.38	4,276.38				
校 舎	<u>建2,296.22</u> <u>延9,509.28</u>	<u>建2,296.22</u> <u>延9,509.28</u>					
体 育 館	<u>建1,442.72</u> <u>延2,730.01</u>	<u>建1,442.72</u> <u>延2,730.01</u>					
武 道 場	<u>建 199.23</u> <u>延 199.23</u>	<u>建 199.23</u> <u>延 199.23</u>					
その他の建物	<u>建 788.57</u> <u>延 1057.36</u>	<u>建 648.14</u> <u>延 916.93</u>			<u>建 140.43</u> <u>延 140.43</u>		
プ ー ル	813.75	813.75					16.275×50m 7コース
職 員 住 宅	46戸	46戸					46戸

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等(法面・演習林等を除く)

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	38,904.97㎡	9,509.28㎡	19,822.35㎡
県平均	45,574.48㎡	9,782.41㎡	22,506.84㎡

□□□□□□

学校施設の概要

(分校)

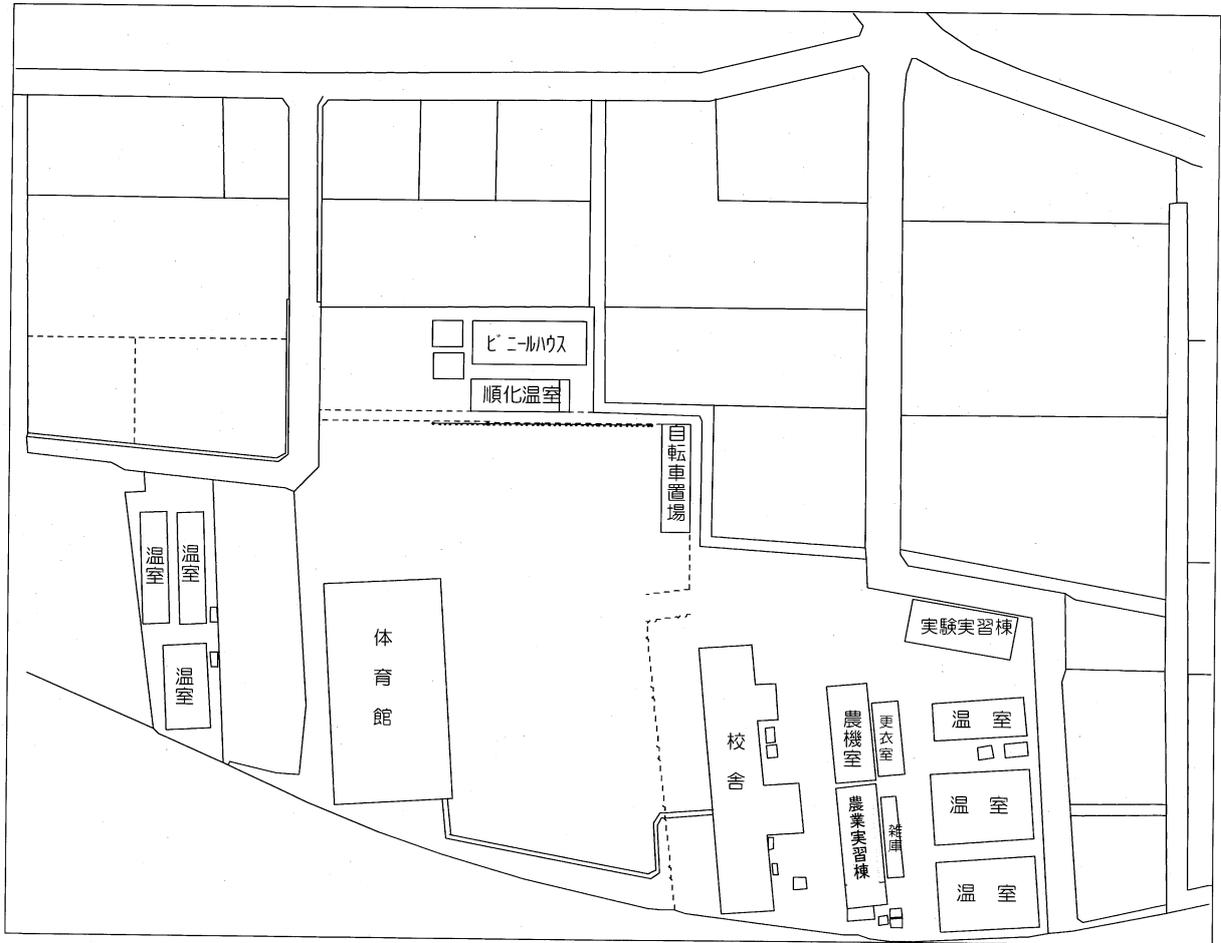
1 面積及び所有区分

(令和7年10月31日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地	10,245.42	10,245.42					
内 訳	校 舎 敷 地	4,888.42	4,888.42				
	運 動 場 敷 地	5,357.00	5,357.00				
	そ の 他 の 敷 地	0	0				
実 習 地	8,691.16	3,478.16				5,213.00	
内 訳	畑	8,961.16	3,478.16			5,213.00	民有地の台帳 地目:田
校 舎	建 901.31	建 901.31					
	延 2,054.13	延 2,054.13					
体 育 館	建 969.97	建 969.97					
	延 1,012.29	延 1,012.29					
その他の建物	建 515.24	建 500.91			建 14.33		
	延 515.24	延 500.91			延 14.33		

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等(法面・演習林等を除く)

区	分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当	校	10,245.42 m ²	2,054.13 m ²	5,357.00 m ²
県	平均	45,574.48m ²	9,782.41 m ²	22,506.84 m ²

□□□□□□

在 籍 生 徒 調

(全日制)

(令和7年10月31日現在)

学年	学科別 区分	普通科				理数科				小計				園芸科				合計			
		定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	小計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	合計
1年	入学者	120	49	59	108	40	16	10	26	160	65	69	134	40	13	10	23	200	78	79	157
	増加																				
	減少																				
	現在		49	59	108		16	10	26		65	69	134		13	10	23		78	79	157
2年	入学者	120	63	59	122	40	7	7	14	160	70	66	136	40	13	13	26	200	83	79	162
	増加																				
	減少															2	2			2	2
	2年時当初		63	59	122		7	7	14		70	66	136		13	11	24		83	77	160
	増加																				
	減少		1		1						1		1						1		1
	現在		62	59	121		7	7	14		69	66	135		13	11	24		82	77	159
3年	入学者	120	55	68	123	40	16	14	30	160	71	82	153	40	16	5	21	200	87	87	174
	増加																				
	減少		2		2		1		1		3		3						3		3
	2年時当初		53	68	121		15	14	29		68	82	150		16	5	21		84	87	171
	増加																				
	減少		1	1	2						1	1	2		1		1		2	1	3
	3年時当初		52	67	119		15	14	29		67	81	148		15	5	20		82	86	168
	増加																				
減少		1		1						1		1						1		1	
現在		51	67	118		15	14	29		66	81	147		15	5	20		81	86	167	
合 計		360	162	185	347	120	38	31	69	480	200	216	416	120	41	26	67	600	241	242	483

□□□□□□

在 籍 生 徒 調

(定時制)

(令和7年10月31日現在)

学年	学科別		普通科			
	区分		定員	男子	女子	合計
1年	入学者		40	4	5	9
		増加			(1)	(1)
		減少				
	現在			4	6	10
2年	入学者		40	2	6	8
		増加			(1)	(1)
		減少			1 (1)	1 (1)
	2年時当初			2	5	7
		増加		1		
		減少				
現在			3	5	8	
3年	入学者		40	1	5	6
		増加			(2)	(2)
		減少			1 (1)	1 (1)
	2年時当初			1	5	6
		増加				
		減少				
	3年時当初			1	5	6
		増加				
	減少					
現在			1	5	6	
4年	入学者		40	2	3	5
		増加				
		減少		1	(2)	1 (2)
	2年時当初			1	1	2
		増加				
		減少				
	3年時当初			1	1	2
		増加				
		減少				
	3修制卒					
	4年時当初			1	1	2
	増加					
	減少					
現在			1	1	2	
合 計			160	9	17	26

入学志願者及び入学者数調

(本校・全日制)

区 分		3年度		4年度		5年度		6年度		7年度	
学 科 別		普通科	理数科								
生徒定員 (A)		160	40	160	40	120	40	120	40	120	40
募集者数 (B)		160	40	160	40	120	40	120	40	120	40
志願者数	男	65(0)	21(0)	63(0)	19(0)	58(0)	18(0)	66(0)	7(0)	50(0)	16(0)
	女	86(0)	17(0)	88(1)	9(0)	74(0)	14(0)	60(0)	7(0)	61(0)	10(0)
	計(C)	151(0)	38(0)	151(1)	28(0)	132(0)	32(0)	126(0)	14(0)	111(0)	26(0)
受検者数	男	65(0)	20(0)	63(0)	19(0)	58(0)	16(0)	66(0)	7(0)	50(0)	16(0)
	女	86(0)	17(0)	88(1)	9(0)	74(0)	14(0)	60(0)	7(0)	61(0)	10(0)
	計(D)	151(0)	37(0)	151(1)	28(0)	132(0)	30(0)	126(0)	14(0)	111(0)	26(0)
合格者数	男	66(0)	18(0)	63(0)	18(0)	55(0)	16(0)	63(0)	7(0)	49(0)	16(0)
	女	87(0)	16(0)	88(1)	9(0)	68(0)	14(0)	59(0)	7(0)	59(0)	10(0)
	計(E)	153(0)	34(0)	151(1)	27(0)	123(0)	30(0)	122(0)	14(0)	108(0)	26(0)
志願倍率 (C)/(B)		0.94	0.95	0.94	0.70	1.10	0.80	1.05	0.35	0.93	0.65
受検倍率 (D)/(B)		0.94	0.93	0.94	0.70	1.10	0.75	1.05	0.35	0.93	0.65
入学者数	男	66	18	63	18	55	16	63	7	49	16
	女	87	16	89	9	68	14	59	7	59	10
	計(F)	153	34	152	27	123	30	122	14	108	26
充足率 (F)/(A)		0.96	0.85	0.95	0.68	1.03	0.75	1.02	0.35	0.90	0.65

入学志願者及び入学者数調

(定時制)

区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
学 科 別		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
生徒定員 (A)		40	40	40	40	40
募集者数 (B)		40	40	40	40	40
志願者数	男	3 (1)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	4 (0)
	女	3 (0)	3 (0)	5 (0)	5 (1)	5 (0)
	計 (C)	6 (1)	5 (0)	7 (0)	7 (1)	9 (0)
受検者数	男	3 (1)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	4 (0)
	女	3 (0)	3 (0)	5 (0)	5 (1)	5 (0)
	計 (D)	6 (1)	5 (0)	7 (0)	7 (1)	9 (0)
合格者数	男	3 (1)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	4 (0)
	女	3 (0)	3 (0)	5 (0)	5 (1)	5 (0)
	計 (E)	6 (1)	5 (0)	6 (0)	7 (1)	9 (0)
志願倍率 (C)/(B)		0.15	0.13	0.18	0.18	0.23
受検倍率 (D)/(B)		0.15	0.13	0.18	0.18	0.23
入学者数	男	4	2	1	2	4
	女	3	3	5	6	5
	計 (F)	7	5	6	8	9
充足率 (F)/(A)		0.18	0.13	0.15	0.20	0.23

入学志願者及び入学者数調

(分校・全日制)

区 分		3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
学 科 別		園芸科	園芸科	園芸科	園芸科	園芸科
生徒定員 (A)		40	40	40	40	40
募集者数 (B)		40	40	40	40	40
志願者数	男	15(0)	16(1)	15(1)	13(0)	12(0)
	女	7(0)	4(0)	5(0)	13(1)	10(1)
	計(C)	22(0)	20(1)	20(1)	26(1)	22(1)
受検者数	男	15(0)	16(1)	15(1)	13(0)	12(0)
	女	7(0)	4(0)	5(0)	13(1)	10(1)
	計(D)	22(0)	20(1)	20(1)	26(1)	22(1)
合格者数	男	15(0)	14(0)	15(1)	13(0)	12(0)
	女	7(0)	3(0)	5(0)	12(1)	10(1)
	計(E)	22(0)	17(0)	20(1)	25(1)	22(1)
志願倍率 (C)/(B)		0.55	0.50	0.50	0.65	0.55
受検倍率 (D)/(B)		0.55	0.50	0.50	0.63	0.55
入学者数	男	14	14	16	13	13
	女	7	3	5	13	10
	計(F)	21	17	21	26	23
充足率 (F)/(A)		0.53	0.43	0.53	0.65	0.58

□□□□□□

卒業生の動向調

(本校・全日制)

1 進路状況

学 科 別		普 通 科			理 数 科			計			
年 度		4年度	5年度	6年度	4年度	5年度	6年度	4年度	5年度	6年度	
卒業生徒数		141	149	152	32	32	27	173	181	179	
内 訳	(進学志願者)	131	139	147	32	31	27	163	170	174	
	進 学 者	大学・短大	106	109	121	31	29	27	137	138	148
		専修・各種学校等	25	30	26	1	2	0	26	32	26
		小 計	131	139	147	32	31	27	163	170	174
	就 職 者	3	6	5	0	0	0	3	6	5	
	自 営 者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	進 学 準 備 者	0	3	0	0	1	0	0	4	0	
	そ の 他	7	1	0	0	0	0	7	1	0	
合 計		141	149	152	32	32	27	173	181	179	

2 求人状況

区分	4年度	5年度	6年度
就 職 希 望 者 数	4	6	5
求 人 数	399	421	524
求 人 倍 率	99.8	70.2	104.8

3 資格取得状況

(令和6年度)

学 科 別	普 通 科	理 数 科	計
卒業生徒数	152	27	179
実用英語技能検定2級	23	11	34
実用英語技能検定準2級	54	5	59
日本漢字能力検定2級	1	0	1
日本漢字能力検定準2級	2	0	2
全商情報処理検定ビジネス情報部門2級	11	0	11
全経簿記能力検定3級	12	0	12
日検情報処理技能検定1級 表計算	1	0	1
日検情報処理技能検定2級 表計算	10	0	10
合 計	114	16	130

□□□□□□

卒業生の動向調

(本校・定時制)

1 進路状況

学 科 別		普 通 科			
年 度		4年度	5年度	6年度	
卒 業 生 徒 数		4	6	3	
内 訳	(進学志願者)		1	3	2
	進 学 者	大 学 ・ 短 大	0	2	0
		専 修 ・ 各 種 学 校 等	1	1	2
		小 計	1	3	2
	就 職 者		3	3	1
	自 営 者		0	0	0
	進 学 準 備 者		0	0	0
	そ の 他		0	0	0
合 計		4	6	3	

3 資格取得状況

(令和6年度)

学 科 別	普 通 科
卒 業 生 徒 数	3
全国経理教育協会簿記能力検定 3級	1
合計	1

□□□□□□

卒業生の動向調

(分校・全日制)

1 進路状況

学 科 別		園	芸	科	
年 度		4年度	5年度	6年度	
卒 業 生 徒 数		17	20	14	
内 訳	(進学志願者)	12	10	6	
	進 学 者	大 学 ・ 短 大	2	3	2
		専 修 ・ 各 種 学 校 等	10	7	4
		小 計	12	10	6
	就 職 者	5	9	8	
	自 営 者	0	0	0	
	進 学 準 備 者	0	0	0	
	そ の 他	0	1	0	
合 計		17	20	14	

2 求人状況

区分	4年度	5年度	6年度
就 職 希 望 者 数	5	10	8
求 人 数	428	550	473
求 人 倍 率	85.6	55.0	59.1

3 資格取得状況

(令和6年度)

学 科 別	園	芸	科
卒 業 生 徒 数	14		
日 検 日 本 語 ワ ー プ ロ 検 定 2 級	1		
日 検 日 本 語 ワ ー プ ロ 検 定 3 級	1		
日 検 情 報 処 理 技 能 検 定 (表 計 算) 準 2 級	2		
日 検 情 報 処 理 技 能 検 定 (表 計 算) 3 級	4		
日 本 農 業 技 術 検 定 3 級	6		
合 計	14		

□□□□□□

生徒の状況

(本校・全日制)

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和7年10月31日現在) (単位:人)

市町名	下田市	南伊豆町	河津町	東伊豆町	西伊豆町	松崎町	その他	合計
生徒数	202	67	58	25	31	27	6	416
構成比%	48.6	16.1	13.9	6.0	7.5	6.5	1.4	100%

(2) 通学方法 (令和7年10月31日現在) (単位:人)

区分	徒歩	バス	電車	電車バス	自転車	その他	合計
生徒数	34	154	87	1	127	12	415
構成比%	8.2	37.1	21.0	0.2	30.6	2.9	100%

2 部(クラブ)の加入状況

(令和7年10月31日現在) (単位:人)

区分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		14	9		23
男子	1年	50	15		65
	2年	57	12		69
	3年	38	28		66
	計(A)	145	55		200
	構成比	72.5%	27.5%		100%
女子	1年	25	44		69
	2年	33	33		66
	3年	40	41		81
	計(B)	98	118		216
	構成比	45.4%	54.6%		100%
合計	(A+B)	243	173		416
	構成比	58.4%	41.6%		100%

□□□□□□

生徒の状況

(本校・定時制)

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和7年10月31日現在) (単位:人)

市町名	東伊豆町	河津町	下田市	南伊豆町	松崎町	その他	合計
生徒数	2	5	10	5	2	2	26
構成比%	7.7	19.2	38.5	19.2	7.7	7.7	100%

(2) 通学方法 (令和7年10月31日現在) (単位:人)

区分	徒歩	自転車	電車バス	電車	送迎	バス送迎	合計
生徒数	2	1	1	9	11	2	26
構成比%	7.7	3.8	3.8	34.7	42.3	7.7	100%

(3) 生徒の年齢 (令和7年10月31日現在) (単位:人)

	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳超	合計
1年	8		1								1	10
2年		7	1									8
3年			5	1								6
4年				1					1			2
計	8	7	7	2					1		1	26

(4) 生徒の就業状況 (令和7年10月31日現在) (単位:人)

区分	建設	製造	卸小売	サービス業	各種学校	その他	無職	合計
1年				6			4	10
2年				6			2	8
3年				4			2	6
4年				1			1	2
計				17			9	26

2 部（クラブ）の加入状況

(令和7年10月31日現在) (単位：人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部（クラブ）数		2	2		4
男子	1年		3	1	4
	2年	1		2	3
	3年	1			1
	4年			1	1
	計（A）	2	3	4	9
	構成比	22.2%	33.3%	44.5%	100%
女子	1年	2	3	1	6
	2年			5	5
	3年	1	2	2	5
	4年			1	1
	計（B）	3	5	9	17
	構成比	17.7%	29.4%	52.9%	100%
合計	（A+B）	5	8	13	26
	構成比	19.2%	30.8%	50.0%	100%

□□□□□□

生徒の状況

(分校・全日制)

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和7年10月31日現在) (単位:人)

市町名	下田市	南伊豆町	その他	合計
生徒数	45	21	1	67
構成比%	67.2%	31.3%	1.5%	100.0%

(2) 通学方法 (令和7年10月31日現在) (単位:人)

区分	徒歩	バス	自転車	送迎	その他	合計
生徒数	4	20	31	6	6	67
構成比%	6.0%	29.8	46.2%	9.0%	9.0%	100.0%

2 部(クラブ)の加入状況

(令和7年10月31日現在) (単位:人)

区分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		3	2		5
男子	1年	4	9	0	13
	2年	1	12	0	13
	3年	1	14	0	15
	計(A)	6	35	0	41
	構成比	14.6%	85.4%	0%	100%
女子	1年	0	10	0	10
	2年	0	11	0	11
	3年	0	4	1	5
	計(B)	0	25	1	26
	構成比	0%	96.2%	3.8%	100%
合計	(A+B)	6	60	1	67
	構成比	8.9%	89.6%	1.5%	100%

□□□□□□
(全日制)

授 業 料 収 納 状 況 調

(令和6年度)

期 別	月 別	調 定 の 状 況										収 納 の 状 況			異 動 者 等 の 状 況
		1 年		2 年		3 年		4 年		計		納 期 内 収 納 額 円	納 期 後 収 納 額 円	収 入 未 済 額 円	
		人 員	調 定 額 円	人 員	調 定 額 円	人 員	調 定 額 円	人 員	調 定 額 円	人 員	調 定 額 円				
一 期	4														A. 期首収納権利発生額=2,019,700円 (68人×9,900円×3月) B. 収納権利増減(▲)額= 0円 C. 収納必要額A(±)B=2,019,600円
	5														
	6														
	7	17	504,900	24	712,800	27	801,900			68	2,019,600	1,960,200	97.1	59,400	
	8													59,400	
	計	17	504,900	24	712,800	27	801,900	0	0	68	2,019,600	1,960,200	97.1	59,400	
二 期	7														A. 期首収納権利発生額=3,564,000円 (72人×9,900円×5月) B. 収納権利増減(▲)額= 0円 C. 収納必要額A(±)B=3,564,000円
	8														
	9														
	10	19	940,500	25	1,237,500	28	1,386,000			72	3,564,000	3,267,000	91.7	297,000	
	11													297,000	
	計	19	940,500	25	1,237,500	28	1,386,000	0	0	72	3,564,000	3,267,000	91.7	297,000	
三 期	12														A. 期首収納権利発生額=2,851,200円 (72人×9,900円×4月) B. 収納権利増減(▲)額= 0円 C. 収納必要額A(±)B=2,851,200円
	1	19	752,400	25	990,000	28	1,108,800			72	2,851,200	2,692,800	94.4	158,400	
	2													158,400	
	計	19	752,400	25	990,000	28	1,108,800	0	0	72	2,851,200	2,692,800	94.4	158,400	
合 計		55	2,197,800	74	2,940,300	83	3,296,700	0	0	212	8,434,800	7,920,000	93.9	514,800	D. 収納必要額= 8,434,800円

□□□□□□
(定時制)

授 業 料 収 納 状 況 調

(令和6年度)

期 別	月 別	調 定 の 状 況										収 納 の 状 況			異 動 者 等 の 状 況	
		1 年		2 年		3 年		4 年		計		納 期 内 収 納 額		納 期 後		収 入
		人 員	調 定 額	人 員	調 定 額	人 員	調 定 額	人 員	調 定 額	人 員	調 定 額	人 員	調 定 額	収 納 率		収 納 額
一 期	4	人	円	人	円	人	円	人	円	人	円	円	%	円	円	A. 期首収納権利発生額＝ 8,100円 (1人×2,700円×3月) B. 収納権利増減(▲)額＝ 0円 C. 収納必要額A(±)B＝ 8,100円
	5															
	6															
	7							1	8,100	1	8,100				8,100	
	8													8,100		
	計	0	0	0	0	0	0	1	8,100	1	8,100	0	0	8,100	0	
二 期	7															A. 期首収納権利発生額＝ 13,500円 (1人×2,700円×5月) B. 収納権利増減(▲)額＝ 0円 C. 収納必要額A(±)B＝ 13,500円
	8															
	9															
	10							1	13,500	1	13,500				13,500	
	11													13,500		
	計	0	0	0	0	0	0	1	13,500	1	13,500	0	0	13,500	0	
三 期	12															A. 期首収納権利発生額＝ 10,800円 (1人×2,700円×4月) B. 収納権利増減(▲)額＝ 0円 C. 収納必要額A(±)B＝ 10,800円
	1							1	10,800	1	10,800	0	0		10,800	
	2													10,800		
	計	0	0	0	0	0	0	1	10,800	1	10,800	0	0	10,800	0	
合 計	0	0	0	0	0	0	3	32,400	3	32,400	0	0	32,400	0	D. 収納必要額＝ 32,400円	

□□□□□□

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区 分	6 年 度	7 年 度 (令和7年10月31日現在)
	件 数	件 数
高等学校入学検定料	170	0

□□□□□□

保管現金有高調

(令和7年度)

(令和7年10月31日現在)

現金保管者	区分	金額 (円)
下田高等学校 校長	使用料及び賃借料継続的資金前渡	17,840

□□□□□□

預金調

(令和7年10月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高 (円)	摘要
□□□□□ □□□□	無利息型 普通預金	□□□□□□	静岡県立下田高等学校 資金前渡者 山崎 文則	0	給与振替口座等
□□□□□ □□□□	無利息型 普通預金	□□□□□□	(自振口)下田高等学校 資金前渡者 下田高等学校長 山崎 文則	0	公共料金等自動振 替用口座
残高合計				0	

□□□□□□□□

郵券等受払調

(令和7年10月31日現在)

(単位：枚、円)

(本校)

区分	種類	令和6年度						令和7年度						摘要			
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出			差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額
郵券	110円券	0	0	0	0	0	0	0	0	3	330	0	0	0	0	3	330
計		0	0	0	0	0	0	0	0	3	330	0	0	0	0	3	330

□□□□□□□□

郵 券 等 受 払 調

(令和7年10月31日現在)

(単位：枚、円)

(分校)

区 分	種 類	令和6年度						令和7年度						差引現在高	摘 要	
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出				
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額			
郵便	350円券	0	0	10	3,500	6	2,100	4	1,400	10	3,500	2	700	12	4,200	文書発送用
	320円券	9	2,880	0	0	9	2,880	0	0	0	0	0	0	0	0	文書発送用
	210円券	8	1,680	0	0	8	1,680	0	0	0	0	0	0	0	0	文書発送用
	180円券	0	0	50	9,000	24	4,320	26	4,680	30	5,400	28	5,040	28	5,040	文書発送用
	120円券	19	2,280	10	1,200	29	3,480	0	0	0	0	0	0	0	0	文書発送用
	110円券	0	0	250	27,500	199	21,890	51	5,610	228	25,080	215	23,650	64	7,040	文書発送用
	84円券	56	4,704	0	0	56	4,704	0	0	0	0	0	0	0	0	文書発送用
	10円券	14	140	150	1,500	104	1,040	60	600	100	1,000	62	620	98	980	文書発送用
	1円券	9	9	0	0	4	4	5	5	0	0	0	0	5	5	文書発送用
計			11,693		42,700		42,098		12,295		34,980		30,010		17,265	

□□□□□□□□

材 料 品 受 払 調

(令和7年10月31日現在)

区分 品名	令和6年度				令和7年度				摘要		
	繰越		受入		払出		繰越			差引現在高	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額			
強力粉	0kg	0円	4.0kg	1,547円	4.0kg	1,547円	0kg	0円	0kg	0円	
ドライイースト	0g	0円	50g	365円	50g	365円	0g	0円	0g	0円	
砂糖	0kg	0円	1.0kg	268円	1.0kg	268円	0kg	0円	0kg	0円	
無塩バター	0g	0円	600g	1,614円	600g	1,614円	0g	0円	0g	0円	
卵	0個	0円	12個	428円	12個	428円	0個	0円	0個	0円	
ショートニング	0g	0円	600g	939円	600g	939円	0g	0円	0g	0円	
薄力粉	0kg	0円	1.0kg	365円	1.0kg	365円	0kg	0円	0kg	0円	
こしあん	0kg	0円	1.6kg	2,582円	1.6kg	2,582円	0kg	0円	0kg	0円	
カスタード クリーム	0kg	0円	4.0kg	3,261円	4.0kg	3,261円	0kg	0円	0kg	0円	
計		0円		11,369円		11,369円		0円		0円	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					5年度	6年度	左のうち、5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	くらし・環境費	環境費	環境政策費		49,500	
	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		1,833,700	
	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費		5,215,650	
	一般会計	教育費	学校教育費	高校教育費		55,000	
計					9,064,176	7,153,850	0
(14) 工事 請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		2,178,000	
計					16,324,330	2,178,000	0
(16) 公有財産 購入費							
計					0	0	0
(17) 備品 購入費	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費		1,174,580	
計					1,913,450	1,174,580	0
(18) 負担金、 補助及 び交付金	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費		54,403,629	
計					59,432,989	54,403,629	0
(21) 補償、補 填及び賠償 金							
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年10月31日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、6年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	1,571,900	/
	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	2,398,720	
計					3,970,620	0
(14) 工事 請負費						/
計					0	0
(16) 公有財産 購入費						/
計					0	0
(17) 備品 購入費						/
計					0	0
(18) 負担金、 補助及 び交付金	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	34,092,700	/
計					34,092,700	0
(21) 補償、補填 及び賠償 金						/
計					0	0

□□□□□□

委託料に関する調

(令和6年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 消防用設備等保守点検業務	㈱藤興産	円 2,883,463	円 1,859,000	円 0	円 1,859,000	指名	R6.4.1 ┆ R7.3.31	R6.11.7 R7.4.11 小計	円 1,345,850 513,150 1,859,000	消火器、消火栓、自動火災報知器、非常放送設備等保守点検業務	松崎 稲取
2	自家用電気工作物保安管理業務	㈱下田電化設備工業	1,249,600	1,249,600	44,000	1,293,600	随契	R6.4.1 ┆ R7.3.31	R6.5.30 R6.6.21 R6.7.26 R6.9.2 R6.10.3 R6.10.29 R6.11.22 R6.12.24 R7.1.24 R7.3.4 R7.3.24 R7.4.22 小計	100,100 100,100 104,500 104,500 124,300 104,500 104,500 104,500 133,100 104,500 104,500 104,500 1,293,600	自家用電気工作物保安管理業務	随契 2号 (不適)
3	夜間定時制高等学校校舎等管理業務	伊豆警備保障㈱	単価契約 5,500円	単価契約 5,500円	0	単価契約 5,500円	随契	R6.4.10 ┆ R7.3.31	R6.5.24 R6.6.26 R6.7.12 R6.8.21 R6.10.17 R6.11.15 R6.12.16 R7.1.21 R7.2.18 R7.3.14 R7.4.11 小計	71,500 93,500 88,000 82,500 93,500 121,000 110,000 82,500 88,000 99,000 16,500 946,000	定時制授業日における校舎等管理業務	随契 2号 (不適) 単価 契約
4	エレベーター保守点検業務	㈱日立ビルシステム横浜支社	508,200	508,200	0	508,200	随契	R6.4.1 ┆ R7.3.31	R6.5.21 R6.6.28 R6.7.29 R6.8.21 R6.10.7 R6.10.23 R6.11.22 R6.12.23 R7.1.27 R7.2.21 R7.3.31 R7.4.21 小計	42,350 42,350 42,350 42,350 42,350 42,350 42,350 42,350 42,350 42,350 42,350 42,350 508,200	エレベーター保守点検業務	随契 1号 (少額)
5	建築物環境衛生管理業務	下田メンテナンス㈱	1,653,410	1,653,300	0	1,653,300	指名	R6.4.1 ┆ R7.3.31	R6.7.12 R6.10.15 R7.1.21 R7.4.11 小計	218,460 722,260 234,960 477,620 1,653,300	本校建築物の衛生環境の確保に関する業務	
6	自動ドア保守管理業務	ナブコシステム㈱沼津営業所	70,400	70,400	0	70,400	随契	R6.4.1 ┆ R7.3.31	R6.9.30 R7.4.14 小計	35,200 35,200 70,400	自動ドア保守点検業務	随契 1号 (少額)
7	教職員住宅消防設備点検委託業務	(株)藤興産	55,000	55,000	0	55,000	随契	R6.5.27 ┆ R7.3.31	R7.4.1 小計	55,000 55,000	消火器、非常放送設備等保守点検業務	随契 1号 (少額)
8	ポリ塩化ビフェニル濃度分析調査業務	(株)東洋検査センター	49,500	49,500	0	49,500	随契	R6.10.1 ┆ R6.11.15	R7.2.19 小計	49,500 49,500	ポリ塩化ビフェニル濃度分析調査業務	随契 1号 (少額)
9	ガスヒートポンプエアコン点検業務	㈱加藤空調サービス	174,350	174,350	0	174,350	随契	R6.11.7 ┆ R6.11.30	R6.12.9 小計	174,350 174,350	ガスヒートポンプエアコン点検業務	随契 1号 (少額)
10	PCB汚染物搬入荷姿登録業務委託	丸両自動車運送㈱	198,000	198,000	0	198,000	随契	R6.11.21 ┆ R6.11.27	R6.12.9 小計	198,000 198,000	産業廃棄物収集・運搬・処分業務	随契 1号 (少額)
11	産業廃棄物収集運搬及び処分業務委託	(株)フジタ	60,500	60,500	0	60,500	随契	R7.1.16 ┆ R7.3.21	R7.4.7 小計	60,500 60,500	産業廃棄物収集・運搬・処分業務	随契 1号 (少額)
12	産業廃棄物収集運搬及び処分業務委託(分校)	(株)フジタ	99,000	99,000	0	99,000	随契	R7.1.8 ┆ R7.3.24	R7.4.9 小計	99,000 99,000	産業廃棄物収集・運搬・処分業務	随契 1号 (少額)

□□□□□□

委 託 料 に 関 す る 調

(令和6年度)

整理 番号	委託業務名	受 託 者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約締 結方法	契約期間	支出年月日	金 額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
13	フロン排出抑制法に基づく定期点検業務委託	伊豆冷暖房工業㈱	132,000	132,000	0	132,000	随契	R7.1.21 ～ R7.2.28	R7.2.26 小計	132,000 132,000	フロン排出抑制法に基づく定期点検業務	随契 1号 (少額)
14	農業クラブプロジェクト発表会配信作業業務委託(分校)	小林テレビ設備(有)	55,000	55,000	0	55,000	随契	R6.11.29 ～ R6.11.29	R6.12.26 小計	55,000 55,000	農業クラブプロジェクト発表会配信作業業務	随契 1号 (少額)
	事務関係計	14件								7,153,850		
	(工事関係) なし											
	工事関係計	0件								0		
	合 計	14件								7,153,850		
参考1	浄化槽保守点検業務	南南豆浄化槽管理センター	円	円	円	円		R6.4.1 ～ R7.3.31		円	下田外2校浄化槽維持管理業務	稲取
参考2	プール浄化装置保守点検業務	(有)南山静商会	135,300	0	135,300			R6.4.25 ～ R6.10.31			下田外2校プール浄化装置保守点検業務	松崎
参考3	建築基準法第12条に基づく定期点検業務	(有)コーセイ産業	2,023,780	0	2,023,780			R6.7.18 ～ R6.10.31			下田外4校の建築・建築設備点検	伊豆伊東
参考4	警備業務	セコム㈱	3,484,800	0	3,484,800			R1.10.1 ～ R6.9.30			下田外3校警備業務	稲取
			696,960	0	696,960			R6.10.1 ～ R11.9.30				
			11,550,000	0	11,550,000							
参考計	4件		4,311,780		4,311,780							

□□□□□□

委 託 料 に 関 す る 調

(令和7年度)

(令和7年10月31日現在)

整理 番号	委託業務名	受 託 者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約締 結方法	契約期間	支出年月日	金 額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 消防用設備等 保守点検業務	榑藤興産	円 2,883,463	円 1,859,000	円 0	円 1,859,000	指名	R7.4.1 ∩ R7.10.17 R8.3.31 小計	円 513,150 832,700 1,345,850	消火器、消火栓、 自動火災報知 器、非常放送設 備等保守点検業 務	松崎 稲取	
2	自家用電気工 作物保安管理 業務	渡邊電気管理 事務所 渡邊和則	1,122,000	950,400	0	950,400	随契	R7.4.1 ∩ R8.3.31 小計	R7.6.30 R7.8.29 R7.10.31 103,400 103,400 433,400 640,200	自家用電気工 作物保安管理業 務	随契 2号 (不適)	
3	夜間定時制高 等学校校舎等 管理業務	伊豆警備保障 榑	単価契約 6,050円	単価契約 6,050円	0	単価契約 6,050円	随契	R7.4.8 ∩ R8.3.31 小計	R7.5.30 R7.6.30 R7.7.31 R7.8.29 R7.10.31 90,750 108,900 84,700 78,650 108,900 471,900	定時制授業日 における校舎等 管理業務	随契 2号 (不適) 単価 契約	
4	エレベーター 保守点検業務	榑日立ビルシ ステム横浜支 社	508,200	508,200	0	508,200	随契	R7.4.1 ∩ R8.3.31 小計	R7.5.30 R7.6.30 R7.7.31 R7.8.29 R7.9.30 R7.10.31 42,350 42,350 42,350 42,350 42,350 254,100	エレベーター保 守点検業務	随契 1号 (少額)	
5	建築物環境衛 生管理業務	下田メンテナ ンス榑	1,684,760	1,683,000	0	1,683,000	指名	R7.4.1 ∩ R8.3.31 小計	R7.7.31 R7.10.31 224,760 731,310 956,070	本校建築物の衛 生環境の確保に 関する業務		
6	自動ドア保守 管理業務	ナブコシステム 榑沼津営業所	70,400	70,400	0	70,400	随契	R7.4.1 ∩ R8.3.31 小計	R7.10.31 35,200 35,200	自動ドア保守点 検業務	随契 1号 (少額)	
7	教職員住宅消 防設備点検委 託業務	(株)藤興産	55,000	55,000	0	55,000	随契	R7.6.10 ∩ R8.3.31 小計	消火器、非常放 送設備等保守点 検業務	随契 1号 (少額)		
事務関係計		7件							3,703,320			
1	(工事関係) 有害物質含有 調査業務 (分校)	(株)エコアップ	292,600	267,300	0	267,300	随契	R7.8.26 ∩ R7.10.31 小計	R7.10.28 267,300 267,300	分校体育館壁面 のアスベスト、 鉛、クロム含有調 査業務	随契 1号 (少額)	
工事関係計		1件							267,300			
合 計		8件							3,970,620			

□□□□□□

委 託 料 に 関 す る 調

(令和7年度)

(令和7年10月31日現在)

整理 番号	委託業務名	受 託 者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約締 結方法	契約期間	支出年月日	金 額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
参考1	浄化槽保守点 検業務	(有)南豆浄化槽 管理センター	円 300,740	円 0	円 300,740		R7.4.1 ∩ R8.3.31				下田外2校浄化 槽維持管理業務	稲取
参考2	プール浄化装 置保守点検業 務	(有)山静商会	135,300	0	135,300		R7.4.25 ∩ R7.10.31				下田外2校プー ル浄化装置保守 点検業務	松崎
参考3	建築基準法第 12条に基づく 定期点検業務	(有)コーセイ 産業	2,749,340	0	2,749,340		R7.8.1 ∩ R7.11.28				下田外4校の建 築・建築設備点 検	伊豆伊東
参考4	警備業務	セコム(株)	11,550,000	0	(1,155,000) 1,155,000		R6.10.1 ∩ R11.9.30				下田外3校警備 業務	稲取
参考計		4件										

□□□□□□

補助金支出調

(令和6年度)

整理番号	対象事業名	交付先	補助の根拠	事業の実績	総事業費	補助金額	補助率	交付決定		交付		事業完了		摘要
								年月日	金額	年月日	金額	年月日	年月日	
1	高等学校定時制の課程及び通信制の課程修学補助金	下田高校定時制生徒2人	高等学校定時制の課程及び通信制の課程修学補助金交付要綱	定時制課程の修学補助	23,429	23,429	県10/10	R7.2.7	23,429	R7.2.28	23,429	R7.2.7	R7.2.7	現
計	1件				23,429	23,429			23,429		23,429			

令和7年度（令和7年10月31日現在）実績なし

負担金支出調

(令和6年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国高等学校長協会第76回総会・研究協議会参加費(本校)	全国高等学校長協会会長	令和6年度 第76回総会・研究協議会開催要項	学校管理運営に関する事など	4,000	R6.5.8
2	甲種防火管理新規講習受講料(分校)	一般財団法人日本防火・防災協会 理事長	甲種防火管理新規講習要領	校舎等建物の防火管理に関する事	8,000	R6.6.17
3	全国定時制通信制教頭・副校長教育研究協議会徳島大会参加費(本校)	全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会理事長	第75回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会教育研究協議会徳島大会実施要項	高等学校定時制の学校管理運営に関する事など	5,000	R6.6.28
4	全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会参加費(本校)	第63回全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会滋賀大会運営委員長	第63回全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会開催要項	学校管理運営に関する事など	4,000	R6.7.3
5	第54回学校運営等研究協議会参加費(分校)	全国農業高等学校長協会会長	令和6年度 第54回学校運営等研究協議会要項	農業教育の振興に関する事	5,000	R6.7.12
6	全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会第57回東海支部総会並びに研究協議会参加費(本校)	全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会東海支部長	全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会第57回東海支部総会並びに研究協議会開催要項	高等学校定時制の学校管理運営に関する事など	2,000	R6.7.17
7	関東支部農業関係高等学校副校長・教頭研究協議会参加費(分校)	第75回関東支部農業関係高等学校副校長・教頭研究協議会神奈川大会実行委員長	第75回関東支部農業関係高等学校副校長・教頭研究協議会神奈川大会実施要項	農業教育の振興に関する事	1,000	R6.7.26
8	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会参加費(本校)	東海四県高等学校長連絡協議会会長	令和6年度 東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会開催要項	学校管理運営に関する事など	2,000	R6.9.30
9	高等学校等就学支援金(本校)	全日制高等学校授業料(第1期分 399名)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	11,850,300	R6.7.31
10	高等学校等就学支援金(本校)	定時制高等学校授業料(第1期分 19名)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	153,900	R6.7.31
11	高等学校等就学支援金(分校)	全日制高等学校授業料(第1期分 59名)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	1,752,300	R6.7.31
12	高等学校等就学支援金(本校)	全日制高等学校授業料(第2期分 396名)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	19,572,300	R6.10.31
13	高等学校等就学支援金(本校)	定時制高等学校授業料(第2期分 19名)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	256,500	R6.10.31
14	高等学校等就学支援金(分校)	全日制高等学校授業料(第2期分 58名)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	2,801,700	R6.10.31
15	高等学校等就学支援金(本校)	定時制高等学校授業料(第2期分 1名)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	-2,700	R6.12.20
16	高等学校等就学支援金(本校)	全日制高等学校授業料(第3期分 395名)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	15,592,500	R7.1.31
17	高等学校等就学支援金(本校)	定時制高等学校授業料(第3期分 18名)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	194,400	R7.1.31
18	高等学校等就学支援金(分校)	全日制高等学校授業料(第3期分 55名)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	2,178,000	R7.1.31
計		18件			54,380,200	

□□□□□□

負担金支出調

(令和7年度)
(令和7年10月31日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国高等学校長協会第77回総会・研究協議会参加費(本校)	全国高等学校長協会会長	令和7年度 第77回総会・研究協議会開催要項	学校管理運営に関することなど	円 4,000	R7.4.30
2	関東支部農業関係高等学校副校長・教頭研究協議会参加費(分校)	第74回全国高等学校農場協会関東支部大会実行委員長	第74回全国高等学校農場協会関東支部大会実施要項	農業教育の振興に関すること	3,500	R7.6.27
3	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会参加費(本校)	東海四県高等学校長連絡協議会会長	令和7年度東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会開催要項	学校管理運営に関することなど	2,000	R7.7.1
4	東海地区高等学校教頭・副校長会総会参加費(本校)	東海地区高等学校教頭・副校長連絡協議会会長	東海地区高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議会開催要項	学校管理運営に関することなど	2,000	R7.9.22
5	高等学校等就学支援金(分校)	全日制高等学校授業料(第1期分 64名)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	1,900,800	R7.7.31
6	高等学校等就学支援金(本校)	全日制高等学校授業料(第1期分 358名)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	10,632,600	R7.7.31
7	高等学校等就学支援金(本校)	定時制高等学校授業料(第1期分 25名)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	202,500	R7.7.31
8	高等学校等就学支援金(本校)	全日制高等学校授業料(第2期分 361名)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	17,790,300	R7.10.31
9	高等学校等就学支援金(本校)	定時制高等学校授業料(第2期分 25名)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	337,500	R7.10.31
10	高等学校等就学支援金(本校)	全日制高等学校授業料(第2期分 1名)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	49,500	R7.10.31
11	高等学校等就学支援金(分校)	全日制高等学校授業料(第2期分 64名)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	3,168,000	R7.10.31
計		11件			34,092,700	

□□□□□□

土 木

整理 番号	予 算 科 目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設計金額	契 約 金 額		
					当初額	変 更 増減額	計
1	教 育 管理費	静岡県立下田高等学校南伊豆分校 実習地田圃戻し工事	賀茂郡南伊豆町 石井地内	1,606,000	1,606,000	0	1,606,000
		合 計	1 件	1,606,000	1,606,000	0	1,606,000

令和7年度 実績なし

工 事 調

(令和6年度)

契約 締結 方法	受注者	着 手 完成(予定) 年 月 日	支出済額	工 事 概 要	摘 要
随契	恵比寿建設 株式会社	R7.2.6 R7.3.26	1,606,000	実習地の返還に伴い、畑から田 圃への現状復旧工事	令達経理 令達月日 R7. 1. 23 支出月日 R7. 4. 30 随契1号(少額)
			1,606,000		

□□□□□□

建 築

整理 番号	予 算 科 目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設計金額	契 約 金 額		
					当初額	変 更 増減額	計
1	教 育 管理費	静岡県立下田高等学校ガス漏れ 火災警報設備直 流電源装置更新 工事	下田市蓮台寺 地内	572,000	572,000	0	572,000
		合 計	1 件	572,000	572,000	0	572,000
参考 1	教 育 管理費	令和6年度[第3 6-Z2401-01 号]下田高等学 校トイレ洋式化工 事	下田市蓮台寺 地内	25,058,000	23,650,000	341,000	23,991,000
		合 計	1 件	25,058,000	23,650,000	341,000	23,991,000

□□□□□□

建 築

整理 番号	予 算 科 目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設計金額	契 約 金 額		
					当初額	変 更 増減額	計
1	教 育 管理費	静岡県立下田高等学校南伊豆分 校体育館渡り廊 下屋根修繕工事	賀茂郡南伊豆町 石井地内	2,211,000	2,145,000	0	2,145,000
2	教 育 管理費	静岡県立下田高等学校南伊豆分 校体育館漏水応 急措置工事	賀茂郡南伊豆町 石井地内	979,000	973,500	0	973,500
		合 計	2 件	3,190,000	3,118,500	0	3,118,500

工 事 調

(令和6年度)

契約 締結 方法	受注者	着手 完成(予定) 年月日	支出済額	工 事 概 要	公有 財産 台帳	摘 要
随契	株式会社 藤興産	R7.1.23 R7.3.12	572,000	ガス漏れ火災警報設備直流電 源装置1台の更新	—	令達経理 令達月日 R6. 12. 19 支出月日 R7. 4. 11 随契1号(少額)
			572,000			
制限付 一般	株式会社 外岡組	R6.6.18 R6.12.20	23,991,000	教室棟のトイレ洋式化(33基)	—	本庁経理 交通基盤部設備課
			23,991,000			

工 事 調

(令和7年度)

(令和7年10月31日現在)

契約 締結 方法	受注者	着手 完成(予定) 年月日	支出済額	工 事 概 要	公有 財産 台帳	摘 要
随契	株式会社 土屋建設	R7.9.25 R7.10.29	—	体育館渡り廊下のタイトフレーム (112m)の交換	—	令達経理 令達月日 R7. 9. 8 支出月日 随契1号(少額)
随契	河津建設 株式会社	R7.10.16 (R8.1.20)	—	体育館屋上シート防水面補修 (101㎡)、ALC壁面シーリング 補修(185㎡)	—	令達経理 令達月日 R7. 10. 2 支出月日 随契1号(少額)
			0			

公 有 財 産 調

(令和6年度)

(本校)

区 分	令和6年3月31日現在		増		減		令和7年3月31日現在		摘 要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産		千円 2,498,674		千円 0		千円 70,598		千円 2,428,076	
土 地	m ² 38,904.97	1,146,959	m ²		m ²		m ² 38,904.97	1,146,959	
建 物	m ² 4,586.31 13,355.45	1,295,579	m ²		m ²	64,014	m ² 4,586.31 13,355.45	1,231,565	
工作物	個 52	56,110	個		個	6,584	個 52	49,526	
立木竹	本 1	26	個		個		個 1	26	
普通財産		223,462		0		10,557		212,905	
土 地	m ² 1,751.71	90,997	m ²		m ²		m ² 1,751.71	90,997	
建 物	m ² 993.62 2,368.10	129,955	m ²		m ²	9,969	m ² 993.62 2,368.10	119,986	
工作物	個 2	2,510	個		個	588	個 2	1,922	
公有財産に 準ずるもの		223		0		0		223	
電話加入権	11	223					11	223	

「令和7年度中増減なし」

(令和6年度)

(分校)

区 分	令和6年3月31日現在		増		減		令和7年3月31日現在		摘 要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産		千円 176,508		千円 0		千円 10,710		千円 165,798	
土 地	m ² 13,723.58	104,499	m ²		m ²		m ² 13,723.58	104,499	
建 物	m ² 2,372.19 3,567.33	40,669	m ²		m ²	8,669	m ² 2,372.19 3,567.33	32,000	
工作物	個 53	31,108	個 2	0	個	2,041	個 55	29,067	
立木竹	個 12	232	個		個	0	個 12	232	
公有財産に 準ずるもの		106		0		0		106	
電話加入権	3	106					3	106	

「令和7年度中増減なし」

□□□□□□

借 地 借 家 等 調

(本校)

(令和7年10月31日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	借料		契約期間	所有者又は契約者氏名	用途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	公舎敷地	下田市6丁目 454-1,455-1	田	宅地	㎡ 773.85 609.48 合計 1,383.33	円 698	円 965,564	自R7.4.1 至R8.3.31	個人	教職員 住宅敷地
2	土地	公舎敷地	下田市吉佐美字井之木田 1257	田	宅地	1,342.11	1,014	1,360,899	自R7.4.1 至R8.3.31	個人	教職員 住宅敷地
3	土地	公舎敷地	下田市大賀茂字片倉 215	田	宅地	1,358.02	1,014	1,377,032	自R7.4.1 至R8.3.31	個人	教職員 住宅敷地
	計					4,083.46		3,703,495			
4	建物	倉庫建	下田市立野安城27	軽量鉄骨造 スレート葺平屋建		91.75 91.75		無償	自R7.4.1 至R8.3.31	静岡県立下田高等学校 PTA会長	部室
5	建物	倉庫建	下田市蓮台寺152他	軽量鉄骨造		39.78 39.78		無償	自R7.4.1 至R8.3.31	静岡県立下田高等学校 後援会長	物置
6	建物	倉庫建	下田市立野安城27	軽量鉄骨造		8.90 8.90		無償	自R7.4.1 至R8.3.31	静岡県立下田高等学校 後援会長	物置
	計					140.43 140.43		0			
7	工作物	冷暖房装置	下田市蓮台寺152			個 1		3,365,313	自R6.7.1 至R19.6.30	NTT・TCリース株式会社 (本庁経理)	特別教室棟空調
	計					個 1		3,365,313			

(分校)

(令和7年10月31日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	借料		契約期間	所有者又は契約者氏名	用途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	実習地	南伊豆町加納字18通 911-1	田	畑	㎡ 2,296.00	円 120	円 275,520	自R7.4.1 至R8.3.31	個人	生徒実習用地
2	土地	実習地	南伊豆町石井字18通 61-1,61-2	田	畑	355.00	120	42,600	自R7.4.1 至R8.3.31	個人	生徒実習用地
3	土地	実習地	南伊豆町石井字18通 44-1,60	田	畑	1,683.00	120	201,960	自R7.4.1 至R8.3.31	個人	生徒実習用地
4	土地	実習地	南伊豆町石井字18通47	田	畑	879.00	120	105,480	自R7.4.1 至R8.3.31	個人	生徒実習用地
	計					5,213.00		625,560			
5	建物	雑屋建	南伊豆町石井58	木造1階建		9.72 9.72		無償	自R7.4.1 至R8.3.31	静岡県立下田高等学校 南伊豆分校後援会長	農業実習施設
6	建物	雑屋建	南伊豆町石井58	軽量S造1階建		4.61 4.61		無償	自R7.4.1 至R8.3.31	静岡県立下田高等学校 南伊豆分校後援会長	購買室
	計					14.33 14.33		0			
7	工作物	雑工作物	南伊豆町石井58	ビニールハウス 平屋建		個 1 (151.2㎡)		無償	自R7.4.1 至R8.3.31	静岡県立下田高等学校 南伊豆分校後援会長	農業実習施設
8	工作物	冷暖房装置	南伊豆町石井58			個 1		711,131	自R3.7.1 至R16.6.30	三井住友ファイナンス& リース株式会社	(本庁経理) 普通教室空調
9	工作物	冷暖房装置	南伊豆町石井58			個 1		900,088	自R6.7.1 至R19.6.30	NTT・TCリース株式会社	(本庁経理) 特別教室空調
	計					個 3		1,611,219			

□□□□□□□□

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和7年度)
(令和7年10月31日現在)

区分	事業名又は契約名	内容	契約額	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
長期継続 契約	(本校) 高速カラー印刷機賃 貸借契約	高速カラー印刷機 1台 (契約日) 令和3年4月1日	3,300,000円	660,000円	660,000円	660,000円	660,000円	660,000円			
	(本校) 電子複写機使用契約	電子複写機 3台 (契約日) 令和5年4月1日	2,489,520円		497,904円	497,904円	497,904円	497,904円	497,904円	497,904円	
	(分校) 電子複写機使用契約	電子複写機 1台 (契約日) 令和6年4月1日	264,300円			63,660円	50,160円	50,160円	50,160円	50,160円	50,160円

行政財産貸付・使用許可調

(本校) (令和7年10月31日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	下田市蓮台寺152	学校敷地	学校敷地	1.00㎡			免除	自R5. 4. 1 至R8. 3. 31	下田市長 災害時避難場所 標識柱設置
2	"	"	"	"	"	1.00㎡			免除	自R5. 4. 1 至R8. 3. 31	下田市長 同報無線戸別 受信機設置
3	"	"	"	"	"	電柱4本 支線5条	1,500		13,500	自R7. 4. 1 至R12. 3. 31	東京電力パワーグリッド(株) 伊豆支社長 電柱・支線敷地
4	"	"	"	"	"	電柱1本	1,500		1,500	自R3. 4. 1 至R8. 3. 31	西日本電信電話(株) 静岡支社長 電柱敷地
5	"	"	"	"	"	117.00m			10,530	自R7. 4. 1 至R12. 3. 31	下田温泉(株) 代表取締役社長 温泉送湯管理設
6	"	"	"	"	"	151.00m			18,180	自R7. 4. 1 至R12. 3. 31	下田温泉(株) 代表取締役社長 温泉送湯管理設
7	"	"	"	"	"	4.00㎡			免除	自R7. 4. 1 至R12. 3. 31	静岡県立下田高等学校 後援会長 カーブミラー設置
8	建物	事務所建	"	S造	S造	2.00㎡			免除	自R5. 4. 1 至R8. 3. 31	下田市長 災害用同報無線 子局設置
9	"	"	"	SRC造	SRC造	1.00㎡			免除	自R6. 4. 1 至R9. 3. 31	静岡県立下田高等学校 後援会長 公衆電話設置
10	土地	学校敷地	"	学校敷地	学校敷地	0.25㎡			110	自R7. 4. 1 至R8. 3. 31	(株)東海バス 代表取締役 バス停看板設置
11	"	"	"	"	"	91.75㎡			免除	自R7. 4. 1 至R12. 3. 31	静岡県立下田高等学校 PTA会長 部室設置
12	"	"	"	"	"	24.47㎡			免除	自R7. 4. 1 至R12. 3. 31	静岡県立下田高等学校 同窓会長 記念碑銅像設置
13	"	"	"	"	"	39.78㎡			免除	自R7. 4. 1 至R12. 3. 31	静岡県立下田高等学校 後援会長 物置設置
14	"	"	"	"	"	8.90㎡			免除	自R7. 4. 1 至R12. 3. 31	静岡県立下田高等学校 後援会長 物置設置
15	"	"	"	"	"	2.65㎡			免除	自R7. 4. 1 至R12. 3. 31	静岡県立下田高等学校 後援会長 記念碑設置
16	建物	事務所建	"	S造	S造	4.73㎡			免除	自R7. 4. 1 至R12. 3. 31	下田市長 美術品展示
17	"	"	"	学校敷地	学校敷地	9.73㎡			免除	自R3. 4. 1 至R8. 3. 31	下田豆陽会(下田高等学 校同窓会) 空調機器設置
18	"	"	"	"	"	73.76㎡			免除	自R6. 4. 1 至R9. 3. 31	静岡県立下田高等学校 後援会長 購買設置
19	建物 土地	事務所建 学校敷地	"	S造 学校敷地	S造 学校敷地	1082.98㎡ 137.52㎡			366,150	自R7. 4. 1 至R8. 3. 31	エネジ(株) 代表取締役 太陽光発電
20	"	"	"	"	"	6.60㎡ 17.94㎡			免除	自R7. 4. 1 至R12. 3. 31	静岡県立下田高等学校 PTA会長 団体職員 執務室・駐車場
21	"	"	"	"	"	3.30㎡ 8.97㎡			免除	自R7. 4. 1 至R12. 3. 31	静岡県立下田高等学校 後援会長 図書室業務
22	"	"	"	"	"	0.90㎡ 8.30㎡			免除	自R7. 4. 1 至R8. 3. 31	静岡県立下田高等学校 後援会長 会議室・普通教室 エアコン設置
23	土地	学校敷地	"	学校敷地	学校敷地	1,537.24㎡			免除	自R3. 9. 27 至R8. 3. 31	静岡県立下田高等学校 後援会長 テニスコート 人工芝敷設
24	"	"	"	"	"	24.00㎡			免除	自R4. 4. 1 至R9. 3. 31	静岡県立下田高等学校 南伊豆分校後援会長 マイクロバス駐車場
25	"	"	"	"	"	1.00㎡			免除	自R7. 4. 1 至R12. 3. 31	下田警察署長 道路標識設置
26	"	"	"	"	"	113.97㎡			6,090	自R7. 10. 6 至R7.10.31	(株)NTTドコモ 関西支社 静岡県危機管理部 危機対策課長 ドコモ5G基地局 設置工事敷地
27	"	"	"	"	"	0.43㎡			免除	自R7. 4. 1 至R10.3.31	静岡県危機管理部 危機対策課長 防災拠点看板設置
28	建物 土地	事務所建 学校敷地	"	S造 学校敷地	S造 学校敷地	2.00㎡ 4.00㎡			124,300 800,000	自R6. 4. 1 至R9. 3. 31	コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株) 代表取締役社長 自動販売機3台
29	建物 土地	事務所建 学校敷地	"	S造 学校敷地	S造 学校敷地	2.00㎡ 2.00㎡			44,000 250,800	自R6. 4. 1 至R9. 3. 31	コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株) 代表取締役社長 自動販売機2台
30	建物	事務所建	"	S造	S造	707.90㎡			12,560	自R6. 11. 10 至R6. 11. 10	日本英語検定協会理事長 実用英語技能 検定二次試験
31	"	"	"	"	"	726.49㎡			12,900	自R7. 3. 2 至R7. 3. 2	日本英語検定協会理事長 実用英語技能 検定二次試験
32	"	"	"	"	"	726.49㎡			12,210	自R7. 7. 6 至R7. 7. 6	日本英語検定協会理事長 実用英語技能 検定二次試験
合計									1,672,830		

□□□□□□

行政財産貸付・使用許可調

(分校) (令和7年10月31日現在)

整理 番号	区分	種 別	所在地	地目		数量又は 面積	貸付料又は使用料		貸付又は 使用許可 期間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使用 許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	南伊豆町石井58	学校 敷地	学校 敷地	9.72㎡		免除	自R6. 4. 1 至R9. 3.31	静岡県立下田高等学校 南伊豆分校後援会長	ボイラー及び ポンプ室設置
2	〃	〃	〃	〃	〃	151.20㎡		免除	自R6. 4. 1 至R9. 3.31	静岡県立下田高等学校 南伊豆分校後援会長	ビニールハウス用 敷地
3	〃	〃	〃	〃	〃	6.00㎡		免除	自R6. 4. 1 至R9. 3.31	静岡県立下田高等学校 南伊豆分校後援会長	創立50周年 記念碑設置
4	〃	〃	〃	〃	〃	4.61㎡		免除	自R6. 4. 1 至R9. 3.31	静岡県立下田高等学校 南伊豆分校後援会長	購買室設置
5	建物	事務所建	〃	RC造	RC造	1.00㎡		免除	自R5. 4. 1 至R8. 3.31	南伊豆町長	防災無線 受信機設置
6	〃	〃	〃	〃	〃	2.00㎡		142,000	自R7.4.1 至R10.3.31	ガイドードリンコ(株) 東海営業部長	自動販売機 容器回収BOX設置
7	〃	〃	〃	〃	〃	64.8㎡		230	自R6.12.7 至R6.12.7	(一社)全国農業会議所会 長	日本農業技術 検定会場
合計								142,230			

□□□□□□

普通財産・借受財産等貸付調

(本校)

(令和7年10月31日現在)

整理 番号	区分	種 別	所 在 地	地 目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は 使用許可 期間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使用許 可目的
				台帳	現況		単 価	年 額			
1	土地	公舎敷地	下田市6丁目6-1	宅地	宅地	電柱2本 支線2条	円 1,500	円 6,000	自R5. 4. 1 至R8. 3.31	東京電力パワーグリッド(株) 伊豆支社長	電柱・支線敷地
合 計								6,000			

(分校)

(令和7年10月31日現在)

整理 番号	区分	種 別	所 在 地	地 目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は 使用許可 期間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使用許 可目的
				台帳	現況		単 価	年 額			
1	土地	学校敷地	南伊豆町石井18 通58番	田	畑	電柱3本 支線2条	円 1,730	円 8,650	自R5. 4. 1 至R8. 3.31	東京電力パワーグリッド(株) 伊豆支社長	電柱・支線敷地
合 計								8,650			

職員公舎管理状況調

(令和7年10月31日現在)

整理 番号	所在地	建築 年月	構造	管理戸 (室)数 (A)	入居戸 (室)数 (B)	Bの内他事務 所職員入居戸 (室)数	空屋戸 (室)数 (A-B)	摘要
1	下田市蓮台寺 525-8	S55. 3	鉄筋コンク リート造 2階建	6	0	0	6	単身用住宅 土地県有 建物県有 (空屋状況) 1戸 R3. 4. 1～ 1戸 R4. 5. 1～ 1戸 R4. 11. 1～ 1戸 R5. 3. 1～ 1戸 R5. 4. 1～ 1戸 R7. 4. 1～
2	下田市6丁目 6-9	S55. 3	鉄筋コンク リート造 2階建	2	0	0	2	世帯用住宅 土地県有 建物県有 売却予定 (空屋状況) 1戸 H24. 4. 1～ 1戸 H28. 4. 1～
3	下田市6丁目 6-1	S46. 2	鉄筋コンク リート造 2階建	2	0	0	2	世帯用住宅 土地県有 建物県有 売却予定 (空屋状況) 1戸 H21. 4. 1～ 1戸 H22. 4. 1～
4	下田市6丁目 23-1	S41. 3	鉄筋コンク リート造 3階	12	10	3	2	世帯用住宅 土地民有 建物県有 危機管理局 1戸 伊豆の国特別支援学校 2戸 (空屋状況) 1戸 R5. 4. 1～ 1戸 R6. 3. 31～
5	下田市大賀茂 215	H 4. 7	鉄筋コンク リート造 3階建1棟	12	8	0	4	世帯用住宅3戸 単身用住宅9戸 土地民有 建物県有 (空屋状況) 1戸 R2. 4. 1～ 2戸 R4. 4. 1～ 1戸 R7. 4. 1～

6	下田市大賀茂 215	H 4. 7	鉄筋コンク リート造 3階建1棟	12	10	0	2	単身用住宅 土地民有 建物県有 (空屋状況) 1戸 R2. 4. 18～ 1戸 R7. 4. 1～
計				46	28	3	18	

主 要 備 品 調

(令和7年10月31日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	07-01	その他の農産用機器	複合環境制御装置 水耕栽培装置(ナツパーランド) 人工光閉鎖型苗生産装置(苗テラス)	毎日(常用) 農業教育用(分校)	R3. 11	22,000,000 ^円
2	05-04	培養機器	組立式組織培養恒温室コ イトロンα 5436L	毎日(常用) 農業教育用(分校)	H3. 3	12,607,200
3	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	第2パソコン室整備機器(教師用1 台、生徒用44台、プロジェクター1台、 プリンター1台)	毎日(年間210日) 授業用	H22. 3	7,014,000
4	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	県立学校ICT環境整備機器(サー バー1台、デスクトップPC41台、カーブ プリンター1式、各ソフトウエア等)	毎日(年間210日) 授業用(分校)	R1. 8	5,770,872
5	02-01	パーソナルコンピュータ周辺機器	学びを広げるICT活用事業整備機器(タブレット80 台、保管庫2台、管理用PC1台、プロジェクター6 台、AP6台他)	毎日(年間210日) 授業用	H29.7	5,429,160
6	07-01	貯蔵用機器	3室独立型 -5～20℃	年間200日 農業教育用(分校)	S63. 3	3,200,000
7	03-03	プロジェクター	学びを広げるICT活用事業整備機 器(天吊りプロジェクター12台)	毎日(常用) 授業用	H31. 3	1,978,992
8	01-04	移動書庫	書庫コクヨハンドラックHF	毎日(常用) 図書室用図書保管	H20. 1	1,547,007
9	05-04	クロマトグラフ	ガスクロマトグラフ分析装置 GC3210S ほか付属品とも	年間30日 授業用	R2. 8	1,542,200
10	10-07	鍵盤楽器	ピアノ カワイ GX5	毎日(年間210日) 授業、部活用	H27. 3	1,531,440
11	01-04	戸棚	生物室上置4連戸棚	毎日(常用) 実験用器具保管	H9. 3	1,506,890
12	07-01	砕土整地用機器	トラクター三菱GF130PBS2	年間30日 農業教育用(分校)	H23. 2	1,420,000
13	05-99	無菌箱	図面利用4人型接種用クリーンベンチ	年間10日 農業教育用(分校)	S61. 3	1,400,000
14	01-04	たな	調理室大型収納壁ヤガミGFX-12	毎日(常用) 実習用具保管	H20.1	1,386,000
15	02-01	その他の情報処理機器	LANサーバー 富士通 PYR2531RBN	毎日(常用) 校内パソコン用	H28. 4	1,359,000
16	05-99	無菌箱	接種用クリーンベンチ 日立CCV型	年間10日 農業教育用(分校)	S62. 3	1,350,000
17	07-01	育成用機器	天吊型 超音波加湿器 三國工業 KUH型	毎日 農業教育用(分校)	H3. 3	1,297,800
18	03-03	その他の視覚用再生用機器	視聴覚室プロジェクター、アンプ、スピーカ	年間30日 授業用	H20. 1	1,272,900
19	07-01	消毒用機器	土壤消毒機 マルブンスB-300	年間2日 農業教育用(分校)	H14.12	1,148,700
20	10-12	トレーニング用器具	トレーニング用具	毎日(年間210日) 授業、部活用	H元.12	1,107,250

生産物受払調

(令和7年10月31日現在)

区分	品名 (単位)	トマト (kg)				キュウリ (kg)				トウガラシ (kg)			
		5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a
<small>全体の生産母体の単位を次の中から選択又は適宜記入する。 (ア)面積 (ha、a、m、反、等) 数量 (個、鉢、本、頭、匹、羽、パック、等) 長さ (m、等) 重さ (t、kg、等) 等</small>		面積 (㎡)				面積 (㎡)				面積 (㎡)			
		84.0	84.0	84.0	0.0	340.0	340.0	340.0	0.0	42.0	0.0	0.0	△ 42.0
受高	前年度繰越高	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	本年度生産高 (イ)	0.0	37.5	25.0	37.5	290.4	460.6	508.2	170.2	5.60	0.00	0.00	△ 5.6
	計	0.0	37.5	25.0	37.5	290.4	460.6	508.2	170.2	5.60	0.00	0.00	△ 5.6
単位数量 (イ/ア)		0.00	0.45	0.30	0.45	0.85	1.35	1.49	0.50	0.13	0.00	0.00	△ 0.13
同前年比 (%) (b-a)/a×100		/				/				/			
払高	売払数量	0.0	37.5	25.0	37.5	290.4	460.6	508.2	170.2	5.60	0.00	0.00	△ 5.6
	売払金額	0	22,500	15,000	22,500	116,984	184,926	169,576	67,942	6,310	0	0	△ 6,310
	非売品数量 分類換 管理換 その他	分類換	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		管理換 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	0.0	37.5	25.0	37.5	290.4	460.6	508.2	170.2	5.6	0	0.00	△ 5.6
残高又は繰越数量		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
摘要		生育不良のため、令和5年度は収穫なし							栽培計画変更のため、令和5年度まで栽培				

区分	品名 (単位)	サラダほうれん草 (kg)				メキャベツ (1袋100g)				サラダ用野菜ミックス (kg)			
		5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a
<small>全体の生産母体の単位を次の中から選択又は適宜記入する。 (ア)面積 (ha、a、m、反、等) 数量 (個、鉢、本、頭、匹、羽、パック、等) 長さ (m、等) 重さ (t、kg、等) 等</small>		面積 (㎡)				面積 (㎡)				面積 (㎡)			
		231.0	0.0	0.0	△ 231.0	42.0	42.0	42.0	0.0	231.0	231.0	231.0	0.0
受高	前年度繰越高	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	本年度生産高 (イ)	150.0	0.0	0.0	△ 150.0	144.0	102.0	0.0	△ 42.0	268.4	493.4	358.8	225.0
	計	150.0	0.0	0.0	△ 150.0	144.0	102.0	0.0	△ 42.0	268.4	493.4	358.8	225.0
単位数量 (イ/ア)		0.7	0.0	0.0	△ 0.7	3.43	2.43	0.00	△ 1.00	1.16	2.14	1.55	0.98
同前年比 (%) (b-a)/a×100		/				/				/			
払高	売払数量	150.0	0.0	0.0	△ 150.0	144.0	102.0	0.0	△ 42.0	268.4	493.4	358.8	225.0
	売払金額	193,371	0	0	△ 193,371	14,169	9,740	0	△ 4,429	263,143	490,228	356,309	227,085
	非売品数量 分類換 管理換 その他	分類換	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		管理換 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	150.0	0.0	0.0	△ 150.0	144.0	102.0	0.0	△ 42.0	268.4	493.4	358.8	225.0
残高又は繰越数量		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
摘要		栽培計画変更のため、令和5年度まで栽培											

生産物受払調

(令和7年10月31日現在)

区分	品名 (単位)	カーネーション (本)				パンジー (鉢)				葉ボタン (鉢)			
		5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a
<small>全体の生産母体の単位を次の中から選択又は適宜記入する。 (ア)面積 (ha、a、㎡、反、等) 数量 (個、鉢、本、頭、匹、羽、バツ、等) 長さ (m、等) 重さ (t、kg、等) 等</small>		面積 (㎡)				面積 (㎡)				面積 (㎡)			
		200.0	200.0	200.0	0.0	23.52	23.52	23.52	0.0	145.44	145.44	145.44	0.0
受高	前年度繰越高	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	本年度生産高 (イ)	7,944.0	6,633.0	6,035.0	△ 1311.0	1,037.0	1,275.0	0.0	238.0	410.0	405.0	△ 5.0	
	計	7,944.0	6,633.0	6,035.0	△ 1311.0	1,037.0	1,275.0	0.0	238.0	410.0	405.0	△ 5.0	
単位数量 (イ/ア)		39.72	33.17	30.18	△ 6.55	44.09	54.21	0.00	10.12	2.82	2.78	△ 0.04	
同前年比 (%) (b-a)/a×100					△ 16.5				23.0				△ 1.2
払高	売払数量	7,944.0	6,633.0	6,035.0	△ 1311.0	1,037.0	1,275.0	0.0	238.0	410.0	405.0	△ 5.0	
	売払金額	452,001	353,249	239,950	△ 98,752	62,100	76,380	0	14,280	32,740	24,250	△ 8,490	
	非売品数量 分類換 管理換 その他	分類換	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		管理換 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	7,944.0	6,633.0	6,035.0	△ 1311.0	1,037.0	1,275.0	0.0	238.0	410.0	405.0	△ 5.0	
残高又は繰越数量		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
摘要													

区分	品名 (単位)	サルビア (鉢)				日々草 (鉢)				ペゴニア (鉢)			
		5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a
<small>全体の生産母体の単位を次の中から選択又は適宜記入する。 (ア)面積 (ha、a、㎡、反、等) 数量 (個、鉢、本、頭、匹、羽、バツ、等) 長さ (m、等) 重さ (t、kg、等) 等</small>		面積 (㎡)				面積 (㎡)				面積 (㎡)			
		59.44	59.44	59.44	0.0	19.2	19.2	19.2	0.0	15.0	15.0	15.0	0.0
受高	前年度繰越高	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	本年度生産高 (イ)	326.0	341.0	110.0	15.0	405.0	386.0	391.0	△ 19.0	0.0	130.0	12.0	130.0
	計	326.0	341.0	110.0	15.0	405.0	386.0	391.0	△ 19.0	0.0	130.0	12.0	130.0
単位数量 (イ/ア)		5.48	5.74	1.85	0.26	21.09	20.10	20.36	△ 0.99	0.00	8.67	0.80	8.67
同前年比 (%) (b-a)/a×100					4.6				△ 4.7				
払高	売払数量	326.0	341.0	110.0	15.0	405.0	386.0	391.0	△ 19.0	0.0	130.0	12.0	130.0
	売払金額	19,440	20,160	7,784	720	28,302	23,040	23,340	△ 5,262	0	7,680	660	7,680
	非売品数量 分類換 管理換 その他	分類換	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		管理換 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	326.0	341.0	110.0	15.0	405.0	386.0	391.0	△ 19.0	0.0	130.0	12.0	130.0
残高又は繰越数量		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
摘要		令和5年度は生育不良のためプランター花用のみで苗としての出荷はなし。											

生産物受払調

(令和7年10月31日現在)

区分	品名 (単位)	マリーゴールド (鉢)				ガザニア (鉢)				プランター花 (個)				
		5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a	
<small>全体の生産母体の単位を次の中から選択又は適宜記入する。 (ア)面積 (ha、a、㎡、反、等) 数量 (個、鉢、本、頭、匹、羽、パック、等) 長さ (m、等) 重さ (t、kg、等) 等</small>		面積 (㎡)				面積 (㎡)				面積 (㎡)				
		30	30.0	30.0	0.0	30.0	30.0	30.0	0.0	47.04	47.04	47.04	0.0	
受高	前年度繰越高	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	本年度生産高 (イ)	311.0	476.0	488.0	165.0	215.0	226.0	0.0	11.0	61.0	61.0	61.0	0.0	
	計	311.0	476.0	488.0	165.0	215.0	226.0	0.0	11.0	61.0	61.0	61.0	0.0	
単位数量 (イ/ア)		10.37	15.87	16.27	5.50	7.17	7.53	0.00	0.36	1.30	1.30	1.30	0.00	
同前年比 (%) (b-a)/a×100		/			53.1	/			5.1	/			0.0	
払高	売払数量	311.0	476.0	488.0	165.0	215.0	226.0	0.0	11.0	61.0	61.0	61.0	0.0	
	売払金額	18,540	28,440	29,160	9,900	12,780	13,440	0	660	67,100	67,100	67,100	0	
	非売品数量 分類換 管理換 その他	分類換	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		管理換 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	311.0	476.0	488.0	165.0	215.0	226.0	0.0	11.0	61.0	61.0	61.0	0.0	
残高又は繰越数量		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
摘要														

区分	品名 (単位)	インパチェンス (鉢)				クリサンセマム (鉢)				ブロッコリー (kg)				
		5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a	
<small>全体の生産母体の単位を次の中から選択又は適宜記入する。 (ア)面積 (ha、a、㎡、反、等) 数量 (個、鉢、本、頭、匹、羽、パック、等) 長さ (m、等) 重さ (t、kg、等) 等</small>		面積 (㎡)				面積 (㎡)				面積 (㎡)				
		32.2	32.2	32.2	0.0	52.0	52.0	52.0	0.0	340	340	340	0.0	
受高	前年度繰越高	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	本年度生産高 (イ)	206.0	250.0	217.0	44.0	225.0	156.0	0.0	△ 69.0	75.4	67.3	0.0	△ 8.1	
	計	206.0	250.0	217.0	44.0	225.0	156.0	0.0	△ 69.0	75.4	67.3	0.0	△ 8.1	
単位数量 (イ/ア)		6.40	7.76	6.74	1.36	4.33	3.00	0.00	△ 1.33	0.22	0.20	0.00	△ 0.02	
同前年比 (%) (b-a)/a×100		/			21.4	/			△ 30.7	/			△ 10.7	
払高	売払数量	206.0	250.0	217.0	44.0	225.0	156.0	0.0	△ 69.0	75.4	67.3	0.0	△ 8.1	
	売払金額	12,240	14,880	15,190	2,640	13,230	9,300	0	△ 3,930	30,036	24,228	0	△ 5,808	
	非売品数量 分類換 管理換 その他	分類換	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		管理換 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	206.0	250.0	217.0	44.0	225.0	156.0	0.0	△ 69.0	75.4	67.3	0.0	△ 8.1	
残高又は繰越数量		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
摘要														

生産物受払調

(令和7年10月31日現在)

区分	品名 (単位)	ジャガイモ (kg)				キウイフルーツ (kg)				みかん (kg)			
		5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a
<small>全体の生産母体の単位を次の中から選択又は適宜記入する。 (ア)面積 (ha、a、㎡、反、等) 数量 (個、鉢、本、頭、匹、羽、パック、等) 長さ (m、等) 重さ (t、kg、等) 等</small>		面積 (㎡)				面積 (㎡)				面積 (㎡)			
		390.0	390.0	390.0	0.0	530.0	0.0	0.0	△ 530.0	94.4	94.4	0	0.0
受高	前年度繰越高	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	本年度生産高 (イ)	68.0	138.0	110.0	70.0	13.0	0.0	0.0	△ 13.0	21.0	18.0	0.0	△ 3.0
	計	68.0	138.0	110.0	70.0	13.0	0.0	0.0	△ 13.0	21.0	18.0	0.0	△ 3.0
単位数量 (イ/ア)		0.17	0.35	0.28	0.18	0.02	0.00	0.00	△ 0.02	0.22	0.19	0.00	△ 0.03
同前年比 (%) (b-a)/a×100					102.9				△ 100.0				△ 14.3
払高	売払数量	68.0	138.0	110.0	70.0	13.0	0.0	0.0	△ 13.0	21.0	18.0	0.0	△ 3.0
	売払金額	16,992	35,880	28,600	18,888	5,200	0	0	△ 5,200	2,940	3,600	0	660
	非売品数量 分類換 管理換 その他	分類換	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		管理換 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	68.0	138.0	110.0	70.0	13.0	0.0	0.0	△ 13.0	21.0	18.0	0.0	△ 3.0
残高又は繰越数量		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
摘要		栽培計画変更のため、令和5年度まで栽培						栽培計画変更のため、令和6年度まで栽培					

区分	品名 (単位)	パン (個)											
		5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a	4年度 a	5年度 b	6年10月 31日現在	差 b-a	4年度 a	5年度 b	6年10月 31日現在	差 b-a
<small>全体の生産母体の単位を次の中から選択又は適宜記入する。 (ア)面積 (ha、a、㎡、反、等) 数量 (個、鉢、本、頭、匹、羽、パック、等) 長さ (m、等) 重さ (t、kg、等) 等</small>		面積 (㎡)				面積 (㎡)				面積 (㎡)			
		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
受高	前年度繰越高	0.0	0.0	0.0	0.0								
	本年度生産高 (イ)	410.0	150.0	0.0	△ 260.0								
	計	410.0	150.0	0.0	△ 260.0								
単位数量 (イ/ア)		/	/	/	/								
同前年比 (%) (b-a)/a×100					△ 63.4								
払高	売払数量	410.0	150.0	0.0	△ 260.0								
	売払金額	36,200	12,000	0	△ 24,200								
	非売品数量 分類換 管理換 その他	分類換	0.0	0.0	0.0	0.0							
		管理換 その他	0.0	0.0	0.0	0.0							
	計	410.0	150.0	0.0	△ 260.0								
残高又は繰越数量		0.0	0.0	0.0	0.0								
摘要													

□□□□□□

生産物受払調

(令和7年10月31日現在)

区分	品名 (単位)	令和5年度 a				令和6年度 b				令和7年10月31日現在			
		5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	7年10月 31日現在	差 b-a
<small>全体の生産母体の単位を次の中から選択又は適宜記入する。 (ア) 面積 (ha、a、㎡、反、等) 数量 (個、鉢、本、頭、匹、羽、パック、等) 長さ (m、等) 重さ (t、kg、等) 等</small>		面積 (㎡)				面積 (㎡)				面積 (㎡)			
受高	前年度繰越高												
	本年度生産高 (イ)												
	計												
単位数量 (イ/7)													
同前年比 (%) (b-a)/a×100													
払高	売払数量												
	売払金額	1,403,818				1,421,021				952,669			
	非売品数量 分類換 管理換 その他												
		計											
残高又は繰越数量													
摘要						翌年度分収入 55,108円				翌月分収入 91,984円			

区分	品名 (単位)	差 b-a				差 b-a				差 b-a			
		4年度 a	5年度 b	6年10月 31日現在	差 b-a	4年度 a	5年度 b	6年10月 31日現在	差 b-a	4年度 a	5年度 b	6年10月 31日現在	差 b-a
<small>全体の生産母体の単位を次の中から選択又は適宜記入する。 (ア) 面積 (ha、a、㎡、反、等) 数量 (個、鉢、本、頭、匹、羽、パック、等) 長さ (m、等) 重さ (t、kg、等) 等</small>		面積 (㎡)				面積 (㎡)				面積 (㎡)			
受高	前年度繰越高												
	本年度生産高 (イ)												
	計												
単位数量 (イ/7)													
同前年比 (%) (b-a)/a×100													
払高	売払数量												
	売払金額	17,203											
	非売品数量 分類換 管理換 その他												
		計											
残高又は繰越数量													
摘要													

□□□□□□

職 員 調

【本校全日制】

(令和7年10月31日現在)

整理番号	職名	氏 名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	校長	山崎 文則		□□□	□年□月	□□□
2	副校長	石代 晃司	理 科	□□□	□年□月	□□□
3	教頭	佐藤 弘人	数 学	□□□	□年□月	□□□
4	事務長	鈴木 健夫	事務総括	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
5	教諭	石田 金也	国 語	□□□	□年□月	□□□
6	教諭	長池 由美子	国 語	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
7	教諭	遠藤 覚	地歴公民	□□□	□年□月	□□□
8	教諭	岩瀬 達彦	数 学	□□□	□年□月	□□□
9	教諭	金刺 仁士	保健体育	□□□	□年□月	□□□
10	教諭	佐藤 正英	国 語	□□□	□年□月	□□□
11	教諭	山本 知美	国 語	□□□	□年□月	□□□
12	教諭	村木 健一	音 楽	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
13	教諭	高橋 朋子	家 庭 科	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
14	教諭	小坂 光	理 科	□□□	□年□月	□□□
15	教諭	田中 茂樹	数 学	□□□	□年□月	□□□
16	教諭	村上 遼	国 語	□□□	□年□月	□□□
17	教諭	小玉 裕貴	数 学	□□□	□年□月	□□□
18	教諭	飯田 慎吾	理 科	□□□	□年□月	□□□
19	教諭	大島 真以	理 科	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
20	教諭	尾鷲 和哉	外 国 語	□□□	□年□月	□□□
21	教諭	伊藤 真浩	外 国 語	□□□	□年□月	□□□
22	教諭	鈴木 速斗	理 科	□□□	□年□月	□□□
23	教諭	津野 貴帆	外 国 語	□□□	□年□月	□□□
24	教諭	荻野 真宏	理 科	□□□	□年□月	□□□
25	教諭	田村 祐貴	地歴公民	□□□	□年□月	□□□
26	教諭	今井 彰人	理 科	□□□	□年□月	□□□
27	教諭	泉 諒治	国 語	□□□	□年□月	□□□
28	教諭	小宮山 咲希	保健体育	□□□	□年□月	□□□
29	教諭	須山 亮佑	地歴公民	□□□	□年□月	□□□
30	教諭	駒形 まふゆ	国 語	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
31	教諭	杉山 雄大	数 学	□□□	□年□月	□□□
32	教諭	杉山 貴将	外 国 語	□□□	□年□月	□□□
33	教諭	吉田 光希	商 業	□□□	□年□月	□□□
34	教諭	久田 達也	数 学	□□□	□年□月	□□□
35	教諭	三枝 花帆	保健体育	□□□	□年□月	□□□
36	教諭	古田 裕清	地歴公民	□□□	□年□月	□□□
37	教諭	佐藤 理湖	外 国 語	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
38	教諭	橋本 茄奈	理 科	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
39	養護教諭	鈴木 菜奈	養 護	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
40	実習助手	前田 真里	理 科	□□□	□年□月	
41	主幹	稲葉 吉之	施設・管財	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
42	主査	上原 恵美	人事・給与	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
43	主事	二橋 奈緒	会計・旅費	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
平均年数					□年□月	

(講師・非常勤講師・校医等)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	兼務講師	村木 一成	数 学	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
2	養護教諭指導員	中山あい子	養 護	□□□	□年□月	□□□
3	外国語指導講師	Haggis Stephanie	外 国 語	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
4	非常勤講師	山本 哲夫	数 学	□□□	□年□月	□□□
5	非常勤講師	平井 幸逸	保健体育	□□□	□年□月	□□□
6	非常勤講師	石上 美貴子	外 国 語	□□□	□年□月	□□□
7	非常勤講師	吉田 マヤ	書 道	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
8	非常勤講師	梅田 達也	美 術	□□□	□年□月	□□□
9	非常勤労務職員	川口 毅	環境整備	□□□	□年□月	
10	非常勤労務職員	大塩 奈保子	環境整備	□□□	□年□月	
11	校医	中村 勤己	内 科	□□□	□年□月	□□□
12	校医	池田 正見	内 科	□□□	□年□月	□□□
13	校医	飯島 孝明	内 科	□□□	□年□月	□□□
14	校医	鈴木 大	眼 科	□□□	□年□月	
15	校医	大石 延正	耳 鼻 科	□□□	□年□月	
16	校医	菊池 毅	歯 科	□□□	□年□月	
17	校医	笹本 牧男	歯 科	□□□	□年□月	
18	健康管理医	山口 哲司		□□□	□年□月	□□□
19	薬剤師	鈴野 吉臣		□□□	□年□月	□□□

【本校定時制】

(令和7年10月31日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教頭	三枝 まこと	保健体育	□□□	□年□月	□□□
2	教諭	鈴木 崇彦	商 業	□□□	□年□月	□□□
3	教諭	土屋 文俊	保健体育	□□□	□年□月	□□□
4	教諭	松本 由梨	理 科	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
5	教諭	村木 一成	数 学	□□□	□年□月	□□□
6	教諭	齋藤 周作	国 語	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
7	教諭	塩川 幾仁	外 国 語	□□□	□年□月	□□□
8	教諭	鈴木 開晟	国 語	□□□	□年□月	□□□
9	教諭	野中 大輔	地歴公民	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
10	養護教諭	齋藤 百花	養 護	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
11	主事	土屋 陽奈	会計・庶務	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
平均年数					□年□月	

(講師・非常勤講師・校医等)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	兼務講師	高橋 朋子	家 庭	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
2	非常勤講師	吉田 マヤ	書 道	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
3	外国語指導講師	Haggis Stephanie	外 国 語	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
4	校医	菊池 新	内 科	□□□	□年□月	□□□
5	校医	鈴木 大	眼 科	□□□	□年□月	□□□
6	校医	大石 延正	耳 鼻 科	□□□	□年□月	□□□
7	校医	菊池 毅	歯 科	□□□	□年□月	□□□
8	健康管理医	山口 哲司		□□□	□年□月	□□□
9	薬剤師	鈴野 吉臣		□□□	□年□月	□□□

【南伊豆分校】

(令和7年10月31日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	副校長	稲垣 博		□□□	□年□月	□□□
2	教頭	芝原 圭	園芸科(農業)	□□□	□年□月	□□□
3	教諭	森下 臣一郎	園芸科(農業)	□□□	□年□月	□□□
4	教諭	小林 弘樹	地歴公民	□□□	□年□月	□□□
5	教諭	松田 晶子	英 語	□□□	□年□月	□□□
6	教諭	岡田 多恵	国 語	□□□	□年□月	□□□
7	教諭	肥田 恒次	園芸科(農業)	□□□	□年□月	□□□
8	教諭	堤坂 泰之	数 学	□□□	□年□月	□□□
9	教諭	結城 将太	保健体育	□□□	□年□月	□□□
10	教諭	相磯 萌衣	園芸科(農業)	□□□	□年□月	□□□
11	教諭	杉浦 将平	園芸科(農業)	□□□	□年□月	□□□
12	実習助手	内野 未早妃	園芸科(農業)	□□□	□年□月	
13	養護教諭	佐野 綾音	養 護	□□□	□年□月	□□□
14	主任	増田 成善	給与・管財	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
15	主事	平井 瑛	会 計	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
16	主任技能員	土屋 文男	環境整備	□□□	□年□月	
平均年数					□年□月	

(講師・非常勤講師・校医等)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	実習助手(任)	柏木 凜生	園芸科(農業)	□□□	□年□月	
2	兼務講師	村木 健一	音 楽	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
3	兼務講師	松本 由梨	理 科	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
4	兼務講師	高橋 朋子	家 庭	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
5	非常勤講師	飯田 守	理 科	□□□	□年□月	□□□
6	非常勤講師	吉田 マヤ	書 道	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
7	非常勤講師	山本 重治	園芸科(農業)	□□□	□年□月	□□□
8	非常勤講師	鈴木 秀彦	自立活動	□□□	□年□月	□□□
9	外国語指導講師	Haggis Stephanie	外 国 語	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□□□□
10	非常勤労務職員	黒田 芳子	環境整備	□□□	□年□月	□□□
11	非常勤労務職員	朝井 正貴	環境整備	□□□	□年□月	□□□
12	生産物管理嘱託員	山田 美佐子	農場灌水	□□□	□年□月	□□□
13	校医	飯島 孝明	内 科	□□□	□年□月	□□□
14	校医	宇野 明彦	眼 科	□□□	□年□月	□□□
15	校医	大石 延正	耳 鼻 科	□□□	□年□月	□□□
16	校医	菊池 毅	歯 科	□□□	□年□月	□□□
17	健康管理医	菊池 新		□□□	□年□月	□□□
18	薬剤師	江口 美紀		□□□	□年□月	□□□

□□□□□□

職 員 の 年 齢 調

【本校全日制】

(令和7年10月31日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	□□人	
20歳以上30歳未満	□□人	
30歳以上40歳未満	□□人	
40歳以上50歳未満	□□人	
50歳以上56歳未満	□□人	
56歳以上61歳未満	□□人	
61歳以上	□□人	□□□□□□
計	□□人	平均年齢 □□歳□月

【本校定時制】

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	□人	
20歳以上30歳未満	□人	
30歳以上40歳未満	□人	
40歳以上50歳未満	□人	
50歳以上56歳未満	□人	
56歳以上61歳未満	□人	
61歳以上	□人	
計	□□人	平均年齢 □□歳□月

【南伊豆分校】

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	□人	
20歳以上30歳未満	□人	
30歳以上40歳未満	□人	
40歳以上50歳未満	□人	
50歳以上56歳未満	□人	
56歳以上61歳未満	□人	
61歳以上	□人	
計	□□人	平均年齢 □□歳□月

健康管理

1 令和6年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 □□人 職員数 □□人
受 診 率	□□□%
県平均受診率	100%

(1) 未受診の理由

□□□□□□
□□□□□□

(注) 1 前年度末日現在在籍している職員について記載する。

2 受診率算定に当たっては、休職・特休中、育休・産休・妊娠中、治療中及び海外派遣中等の職員は、算定の対象から除く。

2 令和7年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	人
B 2		要経過観察	人
C 1	勤務をほぼ平常に行つてよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	□□人
C 2		要経過観察	人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	□□人
D 2		要経過観察	□□人
D 3		医 療 不 要	□□人
区 分 者 計			□□人
未区分者数			□□人
合 計			□□人

(1) 管理区分A～C 2該当者

に対する措置状況

□□□□□□□□

(2) 未区分の理由

ア 育 休 □ 人
イ 新規採用 □ 人
ウ 自己都合による未受診 人
エ その他 □ 人
□□□□□□□□

(注) 1 健康管理区分結果は、調査調製日現在在籍している職員（様式第2号-2の記載対象者と同じ。）について記載する。

2 本年度の健康管理区分結果が出ていない職員については、前年度の結果を記載し、（ ）書きで再掲する。

3 前年度に市町等へ派遣されていた職員等は、派遣先等の健康診断結果等に基づき、該当箇所に記載する。

4 本様式は別冊とする。

5 警察署は、「D 3」と「区分者計」の間に「区分なし」を追加して記載する。